

青山 悟

関連 URL・SNS 情報

Web: <http://satoru-aoyama.com/>

Instagram: [@satoru_aoyama](https://www.instagram.com/satoru_aoyama)

1973 年、東京都に生まれる。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジテキスタイルアート科を卒業後、シカゴ美術館付属美術大学大学院で美術学修士（MFA）を取得。工業用ミシンを用い、近代化以降、変容し続ける人間性や労働の価値を問い続けながら、刺繍というメディアの枠を拡張させる作品を発表している。2020 年、COVID-19 にともなう緊急事態宣言下で、オンラインストア「Everyday Art Market」をスタート。非日常にあっても制作を続けることをモットーに、ほぼ毎日即興的に新作を制作、発表し、注目を集める。主なパブリックコレクションに、京都国立近代美術館（京都）、森美術館（東京）、高松市美術館（香川）など。

略歴

1973	東京都生まれ
1998	ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ テキスタイルアート科卒業
2001	シカゴ美術館付属美術大学大学院 ファイバー & マテリアルスタディーズ科修了
現在	東京を拠点に活動

主な個展・二人展

2002	「In Sticked」 Zolla/Lieberman Gallery（シカゴ、アメリカ） Finesilver Gallery（サンアントニオ、アメリカ）
2004	「夕景」 ミヅマアートギャラリー（東京） 「クリテリウム 60 青山悟」 水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）
2005	「空気 コーヒー 東京の朝」 ミヅマアートギャラリー（東京）
2007	「Good Aliens」 One in the Other（ロンドン、英国） 「Crowing in the Studio」 ミヅマアートギャラリー（東京） 「Ancient Pixels」 シカゴ文化センター・ミシガンアヴェニューギャラリー（シカゴ、アメリカ）
2009	「公開制作 48 青山悟 Labour's Lab」 府中市美術館（東京） 「Glitter Pieces #1-22：連鎖／表裏」 ミヅマアートギャラリー（東京）
2010	「複合回路－接触領域」 gallery α M（東京）
2011	「芸術家は人生において 6 本の薔薇を真剣につくらねばならない」 ミヅマアートギャラリー（東京）
2012	「The Man-Machine (Reprise) Featuring 平石博一」 ミヅマアートギャラリー（東京）
2014	「About Painting」 アートフェア東京（東京）
2015	「名もなき刺繍家たちに捧ぐ」 ミヅマアートギャラリー（東京）

- 2016 「Division of Labour」 White Rainbow (ロンドン、英国)
- 2017 「The Age of Disappearance , Satoru Aoyama × Ken Ikeda」
Mizuma Gallery (ギルマンバラックス、シンガポール)
「News From Nowhere」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2019 「Ota Art Archives #1 青山悟」 KOCA (東京)
「The Lonely Labourer」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2021 「Everyday Art Market: Pop-up Store」 ARTS ISOZAKI (茨城)
「Everyday Art Market @GINZA TSUTAYA BOOKS」 銀座蔦屋書店 (東京)

主なグループ展

- 2006 「ニューアート展 2006 [布と糸のかたち]」 横浜市民ギャラリー (神奈川)
- 2008 「ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション展」 霧島アートの森 (鹿児島) ほか巡回
- 2009 「TWIST AND SHOUT: Contemporary Art from Japan」 バンコク芸術文化センター (バンコク、タイ)
- 2010 「六本木クロッシング 2010: アートは可能か?」 森美術館 (東京)
- 2011 「CAFE in Mito 2011 - かかわりの色いろ」 水戸芸術館現代美術ギャラリー (茨城)
「VOCA 展 2011」 上野の森美術館 (東京)
- 2012 「Storyteller - 識る単位」 国際芸術センター青森 (青森)
「ジパング展 - 沸騰する日本の現代アート」 新潟県立万代島美術館 (新潟) ほか巡回
「Photo Reference: Photographic Image in Contemporary Japanese Art Practices」
ベルグラード文化センター (ベルグラード、セルビア)
「メグロアドレス - 都会に生きる作家」 目黒区美術館 (東京)
- 2013 「Flowers」 十和田市現代美術館 (青森)
「アートがあれば II」 東京オペラシティアートギャラリー (東京)
- 2015 「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2015」 (兵庫)
「もう一つの選択 Alternative Choice」 横浜市民ギャラリーあざみ野 (神奈川)
- 2017 「ヨコハマトリエッナーレ 2017」 (神奈川)
「海と山のアート回廊」 尾道市立美術館ほか (広島)
- 2019 「ドレス・コード? - 着る人たちのゲーム」 京都国立近代美術館 (京都) ほか巡回
- 2020 「練馬区立美術館開館 35 周年記念: Re construction 再構築」 練馬区立美術館 (東京)
- 2021 「電線絵画展 - 小林清親から山口晃まで -」 練馬区立美術館 (東京)
- 2022 「ヴォイド オブ ニッポン 77 展 戦後美術史のある風景と反復進行」 GYRE GALLERY (東京)
「ドリーム/ランド」 神奈川県民ホールギャラリー (神奈川)
- 2023 「2022 年度 第 5 回コレクション展」 京都国立近代美術館 (京都)

以上

井上 有一

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.whitestone-gallery.com/ja/blogs/artist/yuichi-inoue>

1916 年、東京に生まれる。1935 年、青山師範学校を経て本所区横川尋常小学校の教員となる。教職のかたわら、上田桑鳩に師事し書道を学ぶ。1952 年、伝統書からの革新を求め墨人会を結成。早くから海外で評価され、1957 年、サンパウロ・ビエンナーレに出品した際にはハーバート・リードに注目される。「書」を現代美術の文脈の中で開花させた先駆者の一人であり、近年は書の母国である中国の美術館が相次いで回顧展を開催し、前例のない人気を誇っている。職業芸術家となることを拒絶し、生涯を教員として過ごした。主なパブリックコレクションに、国立国際美術館（大阪）、京都国立近代美術館（京都）、メトロポリタン美術館（ニューヨーク）ほか。

略歴

- 1916 東京生まれ
- 1935 青山師範学校を経て東京市本所区横川尋常小学校訓導勤務
- 1941 書家の上田桑鳩に師事
- 1957 サンパウロ・ビエンナーレ展に《愚徹》を出品し、ハーバート・リードに注目される
- 1976 神奈川県寒川町立旭小学校校長を最後に、41 年間の教員生活を終える
- 1985 逝去

主な個展・二人展

- 1962 ツヴィルナー画廊（ケルン、ドイツ）
- 1971 「『花の書帖』刊行記念展」壹番館画廊（東京）
- 1977 「『井上有一の書 '49-'77』刊行記念展」飯田画廊（東京）、今橋画廊（大阪）
- 1979 「井上有一書展—壁新聞」和光ホール（東京）
- 1980 京都朝日画廊（京都）
- 1982 「井上有一展—1955 年、そして今」和光ホール（東京）
- 1984 「井上有一 『言葉書』」ウナックサロン（東京）、番画廊（大阪）
- 1986 「井上有一絶筆展」ギャラリーNEWS（東京）、西宮市民ギャラリー（兵庫）
「生きている井上有一」シブヤ西武シードホール（東京）
- 1987 「花にかこまれた井上有一」パルコギャラリー（東京）
- 1989 「大きな井上有一」京都国立近代美術館（京都）
- 1991 「大きな井上有一」埼玉県立近代美術館（埼玉）ほか巡回
- 1993 「すばらしい貧」麻布美術工芸館（東京）

- 1995 「『井上有一書法』刊行記念展」天津人民美術出版社ギャラリー（天津、中国）
「井上有一の花月鳥風」 麻布美術工芸館（東京）
「Yuichi HIN Werke 1954 bis 1982」 シルンクンストハレ（フランクフルト、ドイツ）
「Yuichi Die Bomberdierung Tokyos」 カルメリータ クロスター（フランクフルト、ドイツ）
「Yuichi Wirtschaftswachstum」 工芸美術館（フランクフルト、ドイツ）
- 1999 「井上有一—書は万人の芸術だ」 書芸博物館（ソウル、韓国）
- 2000 「生きた書いた井上有一」 茅ヶ崎市美術館（神奈川）
「Yuichi-Ali」 チャンピーノ市立現代美術ギャラリー（ローマ、イタリア）
- 2004 「井上有一と下保昭の山山の山展」 松本市美術館（長野）
- 2005 「井上有一展」 杭州美術学院（杭州、中国）
「井上有一 ギュンター・ユッカー二人展」 ランゲン美術館（デュッセルドルフ、ドイツ）
- 2008 「井上有一鄭州展」 十方芸術館（河南省、中国）
「日日絶筆行—有一書法作品展」 今日美術館（北京、中国）
- 2009 「井上有一芸術」 三尚当代芸術館（杭州、中国）
- 2010 「字覚—井上有一作品展」 天津美術学院美術館（天津、中国）
「Yuichi 展—常識に非ざる一字書—」 徳島県立文学書道館（徳島）
- 2011 「井上有一書展」 皇城美術館（北京、中国）
「井上有一書法展」 広州美術学院美術館（広州、中国）
- 2015 「遠くて近い井上有一展」 菊池寛実記念 智美術館（東京）
「没後 30 年井上有一展」 瀬戸内市立美術館（岡山）
「生成 井上有一展」 西安美術館（西安、中国）
- 2016 「生誕百年記念 井上有一」 金沢 21 世紀美術館（石川）
「生誕 100 年井上有一 寒川ゆかりの文化人」 寒川文書館（神奈川）
「井上有一生誕百年 対話井上有一展」 紫禁城太廟藝術館（北京、中国）
- 2017 「写并活着一井上有一作品展」 南京藝術学院美術館（南京、中国）
- 2018 「井上有一 1916-1985 書の解放」 パリ日本文化会館（パリ、フランス）

主なグループ展

- 1950 「第 3 回書道芸術院展」（東京）
- 1953 「第 1 回ゲンビ展」（大阪）
- 1954 「日本書道展」 ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 1955 「日米抽象美術展」 東京国立近代美術館（東京）
「現代日本の書展」 アムステルダム市立美術館（アムステルダム、オランダ）ほか巡回
- 1957 「第 4 回サンパウロ・ビエンナーレ」（サンパウロ、ブラジル）
- 1958 ブリュッセル万国博記念「近代美術の 50 年」（ブリュッセル、ベルギー）
- 1959 「第 2 回ドクメンタ」（カッセル、ドイツ）
- 1961 「第 6 回サンパウロ・ビエンナーレ」（サンパウロ、ブラジル）

- 「現代絵画・彫刻ピッツバーグ国際展」(ピッツバーグ、アメリカ)
- 1963 「書法と形象展」 アムステルダム市立美術館 (アムステルダム、オランダ)
- 1969 「現代世界美術展」 東京国立近代美術館 (東京)
- 1970 「第4回日本現代書展」 (東京)
- 1973 「戦後美術の展開展」 東京国立近代美術館 (東京)
- 1985 「未来のアダム」 西武百貨店渋谷店 (東京)
- 1992 「書と絵画との熱き時代 1945-1969」 O美術館 (東京)
- 1994 「Japanese Art after 1945, Scream against the Sky」 グッゲンハイム美術館ソーホー
(ニューヨーク、アメリカ)
- 1999 「比田井天来と日本近代書道の歩み」 長野県信濃美術館 (長野)
- 2002 「日本的なもの／書くこと描くこと」 岐阜県美術館 (岐阜)
- 2009 「戦後美術の3人展—棟方志功・八木一夫・井上有一—」 梅野記念絵画館 (長野)

以上

岩崎 貴宏

関連 URL・SNS 情報

Web: <http://anomalytokyo.com/artist/takahiro-iwasaki>

1975 年広島県生まれ。広島県在住。

岩崎は、歯ブラシ、タオル、本の葉、ダクトテープなど身の回りの日用品を用いて繊細で儚い風景を作り出し、私たちが日常を送る中で見過ごしている現実を、対象との距離、スケールを変えて可視化することで、固定化された私たちの視点を揺さぶり、意識を変容させる。床に雑然と積み上げられたタオルに鉄塔が建つ様は、山奥の送電線を支える鉄塔を想起させ、林立する文庫本の葉にクレーンが建つ様は、まるで建設中のビル群を見ているようだ。

また、歴史的な建築物の地上の実像と水面に反射する虚像を一体化させた姿を、ヒノキの木片で精巧に再現する「リフレクション・モデル」も岩崎の代表的なシリーズとして知られる。これらの作品が生まれた背景には、岩崎が生まれ育ち、現在も拠点にしている広島が、かつて原子爆弾によって一瞬にして壊滅し、戦後の復興期に軍事都市から平和都市へと 180 度転換した史実からの影響が見て取れ、岩崎自身の時間への意識を感じさせる。

2015 年には小山市立車屋美術館、黒部市美術館、ニューヨークのアジアソサエティにて個展を開催、2017 年には第 57 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館代表作家に選出された。

近年は、「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」(伊藤家住宅、2019 年)、「日本・キューバ現代美術展 近くへの遠回り」(ウィフレド・ラム現代美術センター、ハバナ、キューバ、2018 年)、「水と土の芸術祭 2018」(万代島多目的広場、新潟、2018 年)、「MAM コレクション 005 リサイクル&ビルド」(森美術館、東京、2017 年)、「奥能登国際芸術祭 2017」(三崎地区 森腰の古民家、石川県、2017 年)、「PARADOXA-ARTE GIAPPONESE OGGI」(ウディネ近現代美術館、イタリア、2016 年)、「日産アートアワード 2015」(BankART Studio NYK、神奈川、2015 年)、「INVENTO -The Revolutions That have Invented us-」(OCA Museum、サンパウロ、ブラジル、2015 年)、「We can make another future: Japanese art after 1989」(クイーンズランド州立美術館、ブリスベン、オーストラリア、2015 年) など、国内外を問わず数多くの展覧会に参加している。

2018 年、芸術選奨 美術部門において、文部科学大臣新人賞受賞。

略歴

1975	広島県生まれ
2003	広島市立大学芸術学研究科博士後期課程修了（広島）
2005	エジンバラ・カレッジ・オブ・アート大学院修了（エジンバラ、スコットランド）
現在	広島県在住

主な個展・二人展

- 2010 「フェノタイピック・リモデリング」 ARATANIURANO (東京)
- 2011 「ノン・ローカリティー」
ナッサウシャー・クンストフェライン・ヴィースバーデン (ヴィースバーデン、ドイツ)
「アウト・オブ・ディスオーダー (白い山脈)」 アーツ千代田 3331 (東京)
- 2012 「メタフレーズ・シーナリー」 ARATANIURANO (東京)
「グランズ・オブジェクト・シンボル」 パレド・トーキョー (パリ、フランス)
- 2014 「特別展示 岩崎貴宏『Out of Disorder』」 川崎市市民ミュージアム エントランス (神奈川)
「Takahiro Iwasaki: Itsukushima Reflection Model From the NGV Collection」
ヴィクトリア国立美術館 (メルボルン、オーストラリア)
- 2015 「岩崎貴宏『山も積もればチリとなる』」 黒部市美術館 (富山)
「岩崎貴宏『埃 (10-10) と刹那 (10-1)』」 小山市立車屋美術館 (栃木)
「In Focus」 アジアソサエティ (ニューヨーク、アメリカ)
- 2016 「Viewing space vol.001: 岩崎貴宏」 URANO (東京)
「感覚のあそび場 - 岩崎貴宏+久門剛史」 京都芸術センター (京都)
- 2017 第 57 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展「逆さにすれば、森」
カステッロ公園内日本館 (ヴェネツィア、イタリア)
「ひかりは星からできている」 URANO (東京)
- 2018 「GINZA ART EXHIBITION: Layer and Folding」 銀座蔦屋書店 GINZA ATRIUM (東京)
- 2020 「FOCAL DISTANCE | 焦点距離」 渋谷スカイ (東京)
「針の穴から天を覗く」 ANOMALY (東京)

主なグループ展

- 2007 「旧中工場アートプロジェクト『ゴミがアートになる！超高品質なホコリ』」
広島市環境局旧中工場 (広島)
「リバーシブル」 スコットランド国会議事堂 (エジンバラ、スコットランド)
「六本木クロッシング 2007 未来への脈動」 森美術館 (東京)
- 2008 「屋外に住みたくはないけれど、たまになら」 ルーム (ロンドン、英国)
「クローズアップ」 アドボケーテッド・クロース (エジンバラ、スコットランド)
「日常の喜び」 水戸芸術館現代美術センター (茨城)
- 2009 「ジャパン」 スレーヴギャラリー (アムステルダム、オランダ)
「いざ、船内探検！吉宝丸」 広島アートプロジェクト 2009、広島市環境局中工場 (広島)
「日常のスペクタクル」 第 10 回リヨン・ビエンナーレ、リヨン現代美術館他 (リヨン、フランス)
「アジア現代美術プロジェクトーシティ・ネット・アジア 2009」 ソウル市立美術館 (ソウル、韓国)
- 2010 「かなざわ燈涼会」 榎荘 (石川)
「手感的妙」 就在芸術空間 (台北、台湾)
「ビエンナーレ・キュベイ」 OK (リンツ、オーストリア)

- 「知覚の扉Ⅱ」 あいちアートの森 豊田プロジェクト、喜楽亭（豊田市美術館）（愛知）
「エブリデイ(ズ)」 カジノ現代美術フォーラム（ルクセンブルグ、ルクセンブルグ）
- 2011 「ア・コンスタレーション・オブ・アイデアズ」
コーナーハウスギャラリー（マンチェスター、英国）
「ラストワランデ 11 RAW」 オウテ・ワランデ公園（ティルブルク、オランダ）
「WALKING THROUGH... MUDAM COLLECTION」
ジャン大公近代美術館（ルクセンブルグ、ルクセンブルグ）
「ヨコハマトリエンナーレ 2011 Our Magic Hour - 世界はどこまで知ることができるか？」
横浜美術館（神奈川）
「ヴィラ トーキョー」 京橋エリア周辺（東京）
- 2012 「ダブル ビジョン：現代日本美術展」 モスクワ市近代美術館（モスクワ、ロシア） 他巡回
「マイクロコントロール：パッセージ トゥ ザ シークレット オブ アート」
Chunchi Gallery（北京、中国）
「archi + anarchy II」 ARATANIURANO（東京）
「アフターゴールド」 コーク・アビー（ダービー、英国）
「ダブル・ビジョン：現代日本美術展」 ハイファ博物館群（ハイファ、イスラエル）
「ピカミング：ワールド イン フラックス」 c2 4 ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）
「衣・食・住 ソウルー広島」 西京大学（ソウル、韓国）
「アンド ソー オン アンド ソー フォース」
キム?コンテンポラリーアートセンター（リガ、ラトビア）
「岡崎 ART & JAZZ2012」 岡崎市（愛知）
「開館記念企画展 UTOPIA—何処にもない場所 -」 ART BASE 百島（広島）
「オブ ヒューマンスケール アンド ビヨンド」 香港アートセンター（香港）
「第7回アジア・パシフィック・トリエンナーレ (APT7)」
クイーンズランド州立美術館、（ブリスベン、オーストラリア）
- 2013 「New Year's Party」 ARATANIURANO（東京）
「小さな世界へようこそ！ -5 人のアーティストと美術館コレクションのすてきな出会い-」
高松市美術館（香川）
「Very Fun Park 2013」（台北、台湾）
「trans×form -かたちをこえる」 国際芸術センター青森（青森）
「Everyday Life :2013 Asian Art Biennial」 国立台湾美術館（台中、台湾）
「ハートオープナー」 SHIBAURAHOUSE（東京）
「Hidden Dimention」 Gallery Skape（ソウル、韓国）
「Now Japan」 Kunsthal KAdE（アメルスフォールト、オランダ）
- 2014 「Public Art Research Center [PARC3:small world]」 札幌駅前通地下歩行空間（北海道）
「trans×form in Delhi」 国際交流基金（ニューデリー、インド）
「Lost in Landscape」 トレント・ロヴェレート近現代美術館（MART）（ロヴェレート、イタリア）
「Paradise Garden」 MA2 Gallery（東京）

- 「スリーピング・ビューティー」 広島市現代美術館（広島）
- 「第8回深圳彫刻ビエンナーレ」 OCT Contemporary Art Terminal（OCAT）（深圳、中国）
- 「Duality of Existence - Post Fukushima A group exhibition of Contemporary Japanese Art」
- フリードマン・ベンダ（ニューヨーク、アメリカ）
- 「手づくり本仕込みゲイジユツ」 はじまりの美術館（福島）
- 「ヨコハマ・パトリエンナーレ 2014」 象の鼻テラス（神奈川）
- 「COLORED NOISE for 8/02/CUBE1,2,3」 渋谷ヒカリエ 8/CUBE（東京）
- 「17th DOMANI・明日展」 国立新美術館 企画展示室 2E（東京）
- 2015 「We can make another future: Japanese art after 1989」 クイーンズランド州立美術館／
ギャラリー・オブ・モダン・アート(QAGOMA)（ブリスベン、オーストラリア）
- 「横浜美術館コレクション展 2015 年度 第1期 身体からかんがえる コレクションにみる
身体表現—現代美術を中心に」 横浜美術館（神奈川）
- 「INVENTO – The Revolutions That have Invented us –」
- OCA Museum（サンパウロ、ブラジル）
- 「日産アートアワード 2015」 BankART Studio NYK（神奈川）
- 2016 「コレクション展：収蔵品ピックアップ」 川崎市市民ミュージアム（神奈川）
- 「PARADOXA - ARTE GIAPPONESE OGGI」
- Casa Cavazzini ウーディネ近現代美術館（ウーディネ、イタリア）
- 「富士の山ビエンナーレ 2016」 富士市、富士宮市、静岡市内各所（静岡）
- 2017 アート北京特別企画展「平行的亜州世界」 北京・全国農業展覽館（北京、中国）
- 「奥能登国際芸術祭 2017」 石川県珠洲市全域（石川）
- 「MAM コレクション 005 リサイクル&ビルド」 森美術館（東京）
- 「Coming of Age」 Sector 2337（シカゴ、アメリカ）
- 海と山のアート回廊 協賛企画「現代アート、はじめます。—草間彌生からさわひらきまで」
- 静岡県立美術館（静岡）
- 「アートのなぞなぞ —高橋コレクション展」 静岡県立美術館（静岡）
- 「超絶技巧の日本」 ケルン日本文化会館（国際交流基金ケルン事務所）（ケルン、ドイツ）
- 2018 「水と土の芸術祭」 新潟市内全域（新潟）
- 「日本・キューバ現代美術展『近くへの遠回り』」
- ウィフレド・ラム現代美術センター（ハバナ、キューバ）
- 「CHAT Pre-Opening Exhibition (In)tangible Reminiscence」 The Annex（香港）
- 「めがねと旅する美術展」 青森県立美術館（青森）／島根県立石見美術館（島根）／
静岡県立美術館（静岡）
- 「Flowing Books - Temporality: OCAT Nanjing Qixia Public Art Project 2018」
- OCAT Nanjing Qixia Exhibition Site（南京、中国）
- 2019 「数奇景／NEW VIEW 日本を継ぐ、現代アートのいま」
- 阪急うめだ本店 9階 阪急うめだギャラリー（大阪）
- 「縮小／拡大する美術 センス・オブ・スケール展」 横須賀美術館（神奈川）

「Waste Land」 ANOMALY（東京）

「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」四間道 伊藤家住宅（愛知）

広島から発信する現代アート特別展「ここからむこうまで」～ひろしまトリエンナーレプレ事業～、
尾道市立美術館（広島）

コレクション展「MY NAME IS TOKYO KAI AND I AM AN ARTOHOLIC」熊本市現代美術館（熊本）

「Paradise Lost - Gazing at Contemporary Urban Civilization and its Metaphor」

忠泰美術館（台北、台湾）

2020 「Collection as Poem in the Age of Ephemerality」X Museum（北京、中国）

「数奇景／NEW VIEW 日本を継ぐ、現代アートのいま」福岡三越 三越ギャラリー（福岡）／
三菱地所アルティウム（福岡）／日本橋三越本店 本館 7 階 催物会場（東京）

「プレスティア アートブランチ」 SMBC 信託銀行日本橋支店（東京）

「Sight Unseen - Forking Paths in the CHAT Collection」CHAT（香港）

2021 「キュレたま 2021 企画 現象～移ろう世界」高松市美術館（高松）

「日常のあわい」金沢 21 世紀美術館（石川）

「collection #04」岩崎貴宏、桑田卓郎、宮崎啓太、rin art association（群馬）

2022 「MAM コレクション 014：重力と反転、ミクロとマクロ」森美術館（東京）

「北斎と現代アート ART HANKYU 2022」阪急うめだ本店 9 階（大阪）

以上

榎倉 康二

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.tokyo-gallery.com/artists/koji-enokura.html>

1942 年、東京都に生まれる。1970 年、中原佑介がコミッショナーを務めた「第 10 回日本国際美術展〈人間と物質〉」に、リチャード・セラ、クリスト、カール・アンドレ、高松次郎らとともに出品。翌年の第 7 回パリ青年ビエンナーレでは優秀賞（留学賞）を受賞し、約 1 年間のパリ滞在を経てアーヘン市立美術館（旧西ドイツ）で個展を行う。イタリアの「アルテ・ポーヴェラ」や、フランスの「シュポール／シュルファス」、そして日本の「もの派」など、1960 年代後半～70 年代前半に世界各地で起こった前衛芸術の動向の中で、国際的に高い評価を得る。1995 年、52 歳の若さで急逝。2005 年、東京都現代美術館で大規模な回顧展が開催された。主なパブリックコレクションに、東京国立近代美術館（東京）、国立国際美術館（大阪）、M+（中国）など。

略歴

- 1942 東京都生まれ
- 1966 東京藝術大学油画科卒業
- 1968 東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了
- 1995 東京都世田谷区の自宅で倒れ急逝

主な個展

- 1969 「The Ceremony of Walking」 椿近代画廊（東京）
- 1974 「榎倉康二 ある一つの日本の例」 アーヘン市立美術館（アーヘン、ドイツ）
- 1984 Galerie Baudin Lebon（パリ、フランス）
- 1994 「近作展 14」 国立国際美術館（大阪）
- 1996 「榎倉康二遺作展」 東京藝術大学芸術資料館
- 2002 「Retrospection—「版」と「現代美術」と—2002 Spring」 ギャラリー池田美術（東京）
- 2004 「Collection No.8 榎倉康二展」 スペース 23℃（東京）
- 2005 「榎倉康二展」 東京都現代美術館（東京）
- 2012 「榎倉康二個展 2012」 東京画廊+BTAP
- 2013 McCaffrey Fine Arts（ニューヨーク、アメリカ）
Blum & Poe（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2016 VeneKlasen/Wemer（ベルリン、ドイツ）

主なグループ展

- 1969 「4人と5つのイベント」村松画廊（東京）
- 1970 「第10回日本国際美術展〈人間と物質〉」東京都美術館（東京）
- 1971 「第7回パリ青年ビエンナーレ」パリ市立近代美術館（パリ、フランス）
- 1978 「第38回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館」（ヴェネツィア、イタリア）
- 1983 「空白の 粒子の中へ 兆みる」（中西夏之・榎倉康二・高山登）
ギャラリー21（現在 gallery21yo-j）
- 1984 「現代美術の動向Ⅲ 1970年以降の美術—その国際性と独自性」東京都美術館（東京）
- 1992 「70年代日本の前衛 抗争から内なる葛藤へ」ボローニャ市立近代美術館（ボローニャ、イタリア）
* 世田谷美術館（東京）に巡回
- 1995 「1970年—物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち」岐阜県美術館（岐阜）ほか巡回
- 2004 「痕跡—戦後美術における身体と思考」 京都国立近代美術館（京都）
* 東京国立近代美術館（東京）に巡回
- 2005 「もの派—再考」国立国際美術館（大阪）
- 2012 「Requiem for the Sun: The Art of Mono-ha」Blum & Poe（ロサンゼルス、アメリカ）
* Gladstone Gallery（ニューヨーク、アメリカ）に巡回

主な受賞歴

- 1971 第7回パリ青年ビエンナーレ留学賞

以上

岡村 桂三郎

1958 年、東京都に生まれる。20 代で山種美術館賞優秀賞を受賞し、新進気鋭の日本画家としてデビュー。1994 年から翌年まで五島記念文化財団研修員としてニューヨークに滞在する。バーナーで焦がした巨大な杉板を支持体に用い、独自の技法で様々な生き物を描く作風は、日本画の新たな潮流として注目されてきた。国内外の美術館における展覧会出品歴多数。主なパブリックコレクションに、東京国立近代美術館、東京都現代美術館、神奈川県立近代美術館、横浜美術館、愛知県美術館など。

略歴

- 1958 東京都に生まれる。
- 1985 東京芸術大学大学院修士課程修了
- 1988 東京芸術大学大学院後期博士課程満期退学
- 1994-1995 五島記念文化賞美術新人賞受賞によるとして、渡米

主な個展

- 1987 年より個展多数
- 2003 コバヤシ画廊（東京）[以降毎年開催]
- 2008 「岡村桂三郎展」神奈川県立近代美術館（神奈川）
- 2015 「岡村桂三郎展」浜松市秋野不矩美術館（静岡）／コバヤシ画廊（東京）
- 2018 「岡村桂三郎展－異境へー」平塚市美術館（神奈川）
- 2020 「第 1 回 JAPA 天心賞受賞記念 岡村桂三郎展－異界へー」日本橋三越（東京）
- 2023 コバヤシ画廊（東京）[予定]

主なグループ展

- 1984 「春季創画会」日本橋高島屋（東京） [-93]
- 1984 「創画展」東京都美術館（東京）ほか [-93]
- 1986 「川端龍子賞展」和歌山市立博物館（和歌山）
- 1987 「山種美術館大賞展」山種美術館、東京他 [89]
- 1992 「21 世紀の旗手 1992 展 -日本の絵画-」マンリー市立美術館（オーストラリアほか）
「NEW VOICE Contemporary Japanese Paintings」
ノースダコタ美術館他（ノースダコタ、アメリカ）
- 1993 「ART IN JAPANESE - 現代の「日本画」と「日本画」的イメージ」O 美術館（東京）
「現代絵画の一断面－「日本画」を超えて」東京都美術館（東京）
- 1995 「環流-日韓現代美術展」愛知県美術館（愛知）

- 1997 「VOCA'97 - 現代美術の展望 新しい平面の作家たち」上野の森美術館（東京）
- 1998 「『日本画』 純粋と越境 - 90 年代の視点から」練馬区立美術館（東京）
「META 展」丸善日本橋店（東京）
- 2000 「表現の磁場-日本画の現在-」武蔵野美術大学美術資料図書館展示室（東京）
- 2001 「『双』 東北芸術工科大学・京都造形芸術大学・姉妹校日本画交流展」山形美術館（山形）
- 2002 「7 人の日本人画家展」Galerie U Zlateho Kohouta（プラハ、チェコ共和国）
「現代日本美術作家展」Artyx Fine Art Gallery（プラハ、チェコ共和国）
「21 世紀の目展」日本橋高島屋（東京）ほか [以降毎年出品]
- 2003 「絵画の現在展」新潟県立万代島美術館（新潟）
「現在の日本画-その冒険者たち-」岡崎市立美術館（愛知）
- 2004 「超日本画宣言- それはかつて日本画と呼ばれていた」練馬区立美術館（東京）
「第 2 回東山魁夷記念日経日本画大賞展」ニューオータニ美術館（東京）
「KIAF 2004 韓国国際アートフェア」(コバヤシ画廊ブース) COEX（ソウル、韓国）
「2004 亞州新意美術交流展・New Expression of Asian Art Exhibition」台南文化中心（台南、台湾）
「琳派・RIMPA 展」東京国立近代美術館（東京）
- 2006 「モダン・パラダイス展 大原美術館+東京国立近代美術館-東西名画の饗宴」
東京国立近代美術館（東京）
- 2007 「初公開!「賛美小舎」上田コレクションー夫妻であつめた愛しの現代美術ー」
練馬区立美術館（東京）
「開館記念《生きる》」横須賀美術館（神奈川）
- 2007-8 「ニュー・ビジョン・サイタマ III」埼玉県立近代美術館（埼玉）
- 2008 「第 4 回東山魁夷記念日経日本画大賞展」ニューオータニ美術館（東京）
「アミューズランド・トゥモロー2009」北海道立近代美術館（北海道）
- 2009 「眼をとじて-“見ること”の現在」茨城県立近代美術館（茨城）
- 2010 「『日本画』の現在」青梅市立美術館（東京）
「愛知・岐阜・三重三県立美術館協同企画展 ひろがるアート-現代美術入門篇」
三重県立美術館（三重）
- 2011 「祈り…今 - 埼玉の気鋭作家によるー」川口市立アートギャラリー・アトリア（埼玉）
- 2012 「第 18 回MOA岡田茂吉賞」MOA 美術館（静岡）
- 2013 「プレイバック・アーティスト・トーク」東京国立近代美術館（東京）
- 2014 「福岡現代美術ビエンナーレ 2014」喜多方市美術館（福島）
- 2015 「異界へのいざない-妖怪大集合」茨城県近代美術館天心記念館五浦分館（茨城）
- 2016 「日本画の位相 3+2」日本橋高島屋（東京）
「N I H O N 画ー新たな地平を求めてー」豊橋市美術館（愛知）
- 2017 「北アルプス国際芸術祭」信濃大町（長野）
- 2018 「開館 1 周年記念 佐久市立近代美術館コレクション+「現代日本画へようこそ」
太田市美術館・図書館（群馬）
「宇宙に訊ねよ」多摩美術大学美術館（神奈川）

- 2021 「森と水と生きる」長野県立美術館（長野）
2022 「現代日本画 コレクションのあゆみ」平塚市美術館（神奈川）

主な受賞歴

- 1985 台東区長賞
1985 創画会賞 [88]
1987 創画会春季展賞 [89、90、92]
1987 山種美術館大賞展優秀賞
1990 菅楯彦大賞展佳作賞
1991 両洋の眼推奨
1993 五島記念文化賞美術新人賞
2004 タカシマヤ美術賞
芸術選奨文部科学大臣新人賞
2008 第4回東山魁夷記念日経日本画大賞
2012 第18回MOA岡田茂吉賞 MOA美術館賞
2020 第1回JAPA 天心賞

主なパブリックコレクション

東京国立近代美術館
東京都現代美術館
神奈川県立近代美術館
練馬区立美術館
青梅市美術館
横浜美術館
愛知県美術館
岡崎市美術博物館
新潟県立万代島美術館
山種美術館
佐久市立近代美術館
清水寺
台東区
新潟県立万代島美術館
山種美術館
佐久市立近代美術館
清水寺

以上

小沢 剛

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.ozawatsuyoshi.net>

Instagram: [@tsuyoshiozawa](https://www.instagram.com/tsuyoshiozawa)

1965 年、東京都に生まれる。東京藝術大学在学中から、風景の中に自作の地蔵を建立して写真に収める、《地蔵建立》シリーズの制作を開始。そのほか、貸画廊という日本独自のシステムへの疑問から、牛乳箱を世界最小のギャラリーに見立てた《なすび画廊》のシリーズ、日本美術史の名作を醤油でリメイクした《醤油画資料館》、野菜で出来た武器を持つ女性のポートレート写真シリーズ《ベジタブル・ウェポン》など、批評性とユーモアを交えた作品で知られる。近年は、歴史上の人物を題材に、虚実を重ね合わせて物語を構築する「帰ってきた」シリーズを制作。主なパブリックコレクションに、国立国際美術館（大阪）、大原美術館（岡山）、M+（中国）、UBS アートコレクション（スイス）ほか。

岡本一太郎・三太郎は、小沢剛が生み出した空想上の 8 人兄弟「岡本兄弟」の長男と三男。尊敬する岡本太郎が他界した 2 年後の 1998 年に、最初の展覧会「ワンマングループショウ 岡本一太郎、岡本二太郎、岡本三太郎、小沢剛の作品展」が開催された。

略歴

1965	東京都生まれ
1989	東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
1991	東京藝術大学大学院美術研究科壁画専攻修了
2016	東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授に就任
現在	埼玉県を拠点に活動

主な個展・二人展

1992	「JIZOING」青井画廊（大阪） 「JIZOING」細見画廊（東京）
1993	「SO-DAN ART」Trance x Trance Vision（東京）
1994	「なすびと JIZO」メモリーズギャラリー（名古屋）
1995	「相談芸術大学」水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城） 「JIZOING」青井画廊（大阪）
1996	「初期の小沢剛展」オオタファインアーツ（東京）、モマ・コンテンポラリー（福岡）
1998	「JIZOING and New Nasubi Gallery」Asian Fine Arts Factory（ベルリン、ドイツ） 「ワンマングループショウ 岡本一太郎、岡本二太郎、岡本三太郎、小沢剛の作品展」 オオタファインアーツ（東京）

- 1999 「醤油画資料館別館」 オオタファインアーツ（東京）
- 2000 「常設：小沢剛のジゾウイング」 オオタファインアーツ（東京）
- 2001 「小沢剛★中山ダイスケ クロスカウンター」 川崎市岡本太郎美術館（神奈川）
- 2002 「小沢剛：わりと最近の仕事」 オオタファインアーツ（東京）
- 2004 「ワンマングループショウ 2」 オオタファインアーツ（東京）
「同時に答えろ Yes と No!」 森美術館（東京）
- 2005 「コロポックルは君に語りかける」 YVON LAMBERT（パリ、フランス）
「台北国際芸術博覧会：年度芸術家—小沢剛」 台北国際貿易センター（台湾）
- 2007 「七太郎企画：ハチミツと極東と美術」 オオタファインアーツ（東京）
- 2008 「Himming 2008 ベジタブル・ウェポン@ヒミング」 ヒミングアートセンター（富山）
「小沢剛展」 高橋コレクション日比谷（東京）
「太宰府天満宮アートプログラム—ホワイトアウト」 太宰府天満宮宝物殿（福岡）
- 2009 「小沢剛：透明ランナーは走りつづける」 広島市現代美術館（広島）
- 2010 「公開制作 50 小沢剛 できるかな 2010」 府中市美術館（東京）
- 2012 「小沢剛ホワイトアウト大芸術展」 総本山三井寺釈迦堂・一切経蔵（滋賀）
「小沢剛：あなたが誰かを好きのように、誰もが誰かを好き」 豊田市美術館（愛知）
＊福島県立美術館（福島）に巡回
- 2013 「できるかな」 MISA SHIN GALLERY（東京）
- 2014 「帰って来た Dr. N」 はじまりの美術館（福島）
- 2015 「帰って来たペインターF」 資生堂ギャラリー（東京）
「小沢剛：あなたが誰かを好きのように、誰もが誰かを好き」 プラザノース（埼玉）
「小沢剛：ゾウ館長からの夏休みのしゅくだい」 市原湖畔美術館（千葉）
「小沢剛：あなたが誰かを好きのように、誰もが誰かを好き」 [劇場版] いわきアリオス（福島）
- 2016 「あなたが誰かを好きのように、誰もが誰かを好き」 MISA SHIN GALLERY（東京）
「西京人—西京は西京ではない、ゆえに西京は西京である。」 金沢 21 世紀美術館（石川）
- 2018 「不完全—パラレルな美術史」 千葉市美術館（千葉）
- 2019 「小沢剛：J アラート」 MISA SHIN GALLERY（東京）
- 2020 「小沢剛展 オールリターン—百年たったら帰っておいで 百年たてばその意味わかる」
弘前れんが倉庫美術館（青森）
- 2022 「BETA BETA コロナの頃」 MISA SHIN GALLERY（東京）

主なグループ展

- 1993 「ザ・ギンブラート」 銀座路上（東京）
「fo(u)r tunes」 レントゲン芸術研究所（東京）
- 1998 「日韓現代美術展 自己と他者の間」 目黒区美術館（東京）
＊国立国美術館（大阪）、韓国文化芸術振興院美術館（ソウル、韓国）に巡回
- 1999 「第 1 回福岡アジア美術トリエンナーレ 1999」 福岡アジア美術館（福岡）

- 2001 「横浜トリエンナーレ 2001」(神奈川)
「第2回ベルリン・ビエンナーレ」(ベルリン、ドイツ)
- 2003 「第8回イスタンブール・ビエンナーレ」アヤ・ソフィア(イスタンブール、トルコ)
「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2003」(新潟)
- 2005 「第2回広州トリエンナーレ」広州美術館(広州、中国)
「会田誠・小沢剛・山口晃」大原美術館有隣荘(岡山)
- 2008 「ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション」霧島アートの森(鹿児島)ほか巡回
- 2012 「混浴温泉世界 2012」大分県別府市内各所
「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012」(新潟)
「ダブル・ビジョン：現代日本美術展」モスクワ市立近代美術館(モスクワ、ロシア)、
ハイファ博物館群(ハイファ、イスラエル)
- 2017 「ジャパノラマ―1970年以降の新しい日本のアート」
ポンピドゥー・センター・メッス(メッス、フランス)
「ヨコハマトリエンナーレ 2017 星と星座とガラパゴス」(神奈川)
- 2019 「岡本太郎と日本の伝統」川崎市岡本太郎美術館(神奈川)

主な受賞歴

- 2000 第2回岡本太郎記念現代芸術大賞 準大賞
- 2014 第25回タカシマヤ文化基金 美術賞
- 2019 第69回芸術選奨文部科学大臣賞 美術部門

以上

小谷 元彦

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://phantom-limb.com/>

1972 年京都府生まれ。

失われた知覚や変容を幻影として捉え、覚醒と催眠、人間と非人間など両義的な中間領域を探求する。ヴェネチア・ビエンナーレ日本館（2003）、リヨンビエンナーレ（2000）、イスタンブール・ビエンナーレ（2001）等多くの国際展に出品。立体作品のみならず多様なメディアを用い、綿密に構成された完成度の高い作品が内外で評価されている。主な個展に「Tulpa -Here is me」(ANOMALY、2019)、「Terminal Moment - 琳派 400 年記念事業」(京都芸術センター、2014)、「幽体の知覚」(森美術館他巡回 2009–10)。2020 年には「Public Device 彫刻の象徴性と恒久性」(東京藝術大学陳列館)のキュレーションを手がけた（共同キュレーター小田原のどか）。

略歴

1972	京都府生まれ
1995	東京藝術大学美術学部彫刻科卒業
1997	東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
現在	東京を拠点に活動

主な個展

1997	「ファントム・リム」P-House 代官山（東京）
1998	「トランスフィギュレーション」レントゲンクンストラウム（東京）
2001	「エン・メロディ」ファインアート・ラファエル・フォステル（ベルリン、ドイツ） 「エン・メロディ」マレーラ・アルテ・コンテンポラーニャ（ミラノ、イタリア）
2002	「ナインス・ルーム」京都造形芸術大学ギャラリーRAKU（京都）
2004	「モディフィケーション」KPO キリンプラザ大阪（大阪） 「エレクトロ」山本現代（東京） 「レトロスペクティブ」TAKAHASHI Collection（東京）
2007	「SP2 “New Born”」山本現代（東京）
2009	「SP4 “the specter” in modern sculpture」山本現代（東京） 「Hollow」メゾンエルメス（東京）
2010	「小谷元彦：幽体の知覚」森美術館（東京）ほか巡回
2012	「SP0」井原市立田中美術館（岡山）
2013	「Time Tomb」フォトグラフィスカ（ストックホルム、スウェーデン）

- 「Circle of Disruption」 TKG Plus (台北、台湾)
- 2014 「琳派 400 年記念事業 Terminal Moment」 京都芸術センター (京都)
- 2016 「Depth of the Body」 Albertz Benda (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019 「Tulpa – Here is me」 ANOMALY (東京)
- 2021 「The Lionman」 大分県立美術館アトリウム (大分)
- 2023 「i n v a s i o n」 ANOMALY (東京)

主なグループ展

- 1999 「グアレネ・アルテ 99」 サンドレッド・レ・レバウデンゴ財団 (トリノ、イタリア)
「ファンシーダンス」 アートソングエセンター (ソウル、韓国)
「日本ゼロ年」 水戸芸術館現代美術ギャラリー (茨城)
- 2000 「第 5 回リヨンビエンナーレ」 ホール・トニー・ガルニエ (リヨン、フランス)
- 2001 「第 7 回イスタンブールビエンナーレ」 (イスタンブール、トルコ)
- 2003 「第 50 回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館」 (ヴェネチア、イタリア)
- 2004 「六本木クロッシング」 森美術館 (東京)
- 2005 「ガンダム—来るべき未来のために—」 サントリーミュージアム天保山 (大阪) ほか巡回
- 2006 「ARS06」 キアズマ現代美術館 (ヘルシンキ、フィンランド)
- 2008 「ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション」 霧島アートの森 (鹿児島) ほか巡回
- 2011 「バイバイキティ」 ジャパン・ソサエティ (ニューヨーク、アメリカ)
- 2013 「ボーダーライン コレクション展 I」 金沢 21 世紀美術館 (石川)
- 2014 「開館 20 周年記念 M O T コレクション特別企画 クロニクル 1995–」 東京都現代美術館 (東京)
- 2016 「エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ」 国立国際美術館 (大阪)
- 2017 「Ghost」 Daegu Art Museum (テグ、韓国)
「THE ドラえもん展」 森美術館 (東京) ほか巡回
- 2020 「Public Device – 彫刻の象徴性と恒久性」 東京藝術大学大学美術館 (東京) [企画・キュレーション]
- 2022 「A Gateway to possible worlds. Art & science fiction」
ポンピドゥ・センター・メッス (メッス、フランス)
「Reborn-Art Festival 2021-22 – 利他と流動性」 (宮城)
「瀬戸内国際芸術祭 2022」 (香川)

主な受賞歴

- 1999 Guarene Arte99 (グアレネ・アルテ 99)
Premio Regione Piemonte (最優秀プロジェクト)
- 2004 六本木クロッシング インターナショナル・アドバイザリー・ボード賞 トラベル賞
- 2006 京都府文化賞奨励賞
- 2011 平櫛田中賞

2012 芸術選奨文部科学大臣新人賞

以上

華雪

関連 URL ・ SNS 情報

Instagram: [@kasetsu_sho](https://www.instagram.com/kasetsu_sho)

書家。1975 年、京都府生まれ。立命館大学文学部哲学科心理学専攻卒業。92 年より個展を中心に活動。幼い頃に漢文学者・白川静の漢字字典に触れたことで漢字の成り立ちや意味に興味を持ち、文字の由来を綿密にリサーチし、現代の事象との交錯を漢字一文字とテキストの組み合わせで表現する作品づくりに取り組む。

また〈文字を使った表現の可能性を探る〉ことを主題に、国内外でワークショップを開催している。美術館・大学での公開講座から、近年は釜ヶ崎芸術大学や箕面市立萱野中央人権文化センター、栃木市こどもサポートセンターなどでワークショップを行い、識字問題や自閉症をはじめとした様々な障害を抱えた方たちにとっての一字書の可能性を見出している。

2022 年より劇団態変主宰・金満里ソロ公演『漆黒の赤』、小濱明人尺八ソロリサイタル『風狂』などの舞台美術制作も行う。

個展

- 2003 「0」 graf media gm (大阪)
- 2004 「雲と仮面と、雨粒の鳥」新潟絵屋 (新潟)
- 2007 「足もとのこと」砂丘館 (新潟)
「上」新潟絵屋 (新潟)
- 2009 「刺心」二宮家米蔵 (新潟)
- 2011 「十二」新潟絵屋 (新潟)
- 2012 公開制作「木を書いて森をつくる」原美術館 (東京)
「それはかならずしも遠方とはかざらない」hiromiyoshiroppongi (東京)
- 2014 「家を巡る」新潟絵屋 (新潟)
- 2015 「由」新潟絵屋 (新潟)
- 2016 「生活」新潟絵屋 (新潟)
「うつろう」BLOCKHOUSE (東京)
「鳥」二宮家米蔵 (新潟)
- 2017 「顔」新潟絵屋 (新潟)
- 2018 「文学」新潟絵屋 (新潟)
公開制作「Kasetsu in Conversation with Rosetsu」Museum Rietberg (チューリッヒ、スイス)
「光／花」BLOCKHOUSE (東京)
- 2019 「不二」古本遊戯流浪堂 (東京)
- 2020 「書」うつわ菜の花 (神奈川)
「ながれる」HARUKAITO (東京)

- 2021 「みえないものたち」 古本遊戯 流浪堂（東京）
 「Le temps de l'écriture」 Galerie anthologie（パリ、フランス）
- 2022 「短冊」 月日荘（名古屋）
 「くずれる」 HARUKAITO（東京）
 「花」 ギャラリー京都寺町菜の花（京都）
 「鳥 雪」 新潟絵屋（新潟）

グループ展

- 2006 「漕ぎだし」 津田直・片桐功敦・華雪 湖山荘（滋賀）
- 2011 「栗田宏 点 華雪」 砂丘館（新潟）
- 2012 小山登美夫ディレクション「透明な混沌／Crystal Chaos」展 ヒカリエ（東京）
 水と土の芸術祭 北方文化博物館別館（新潟）
- 2013 ふくしまアートキャンプ 東北芸術工科大学・東北復興支援機構（山形）
- 2013 「花の眼 書の眼」 片桐功敦・華雪 和の器韋駄天（東京）
- 2015 片桐功敦・森田春菜・華雪三人展 和の器韋駄天（東京）
 「口 器」 柳原照弘・華雪 hiromiyoshiiroppongi（東京）
 「高橋コレクション展——メッセージズ」 十和田市現代美術館（青森）
- 2016 山形ビエンナーレ 東北芸術工科大学（山形）
- 2018 ヴァンジ彫刻庭園美術館 15 周年企画展「生命の樹」 ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
- 2019 「合同船」 竹俣勇一・華雪 新潟絵屋（新潟）
- 2020 ヨコハマパトリエンナーレ BOOK PROJECT「そのうち届くラブレター」 横浜市役所（神奈川）
- 2021 1970 年大阪万博 50 周年記念プログラム「根の力 -THE POWER OF ORIGIN-」
 大阪日本民芸館（大阪）
- 2021 「PROJECT ATAMI AKAO ART RESIDENCE」 ホテルニューアカオ（静岡）
 「ASIA NOW」 Galerie ANTHOLOGIE（パリ、フランス）
- 2022 「ことばのかたち かたちのことば」 神奈川県民ホールギャラリー（神奈川）
 「とある美術館の夏休み」 千葉市美術館（千葉）
 「MIND TRAIL 奥大和 心のなかの美術館」 天川村（奈良）
 ヴァンジ彫刻庭園美術館 20 周年企画展「生命の花」 ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）

刊行物に、『静物画—篆刻ノート—』（2001 年、平凡社）、『石の遊び』（2003 年、平凡社）、雑誌「アイデア」特別付録『枕と燈台』（2003 年、誠文堂新光社）、『書の棲処』（2006 年、赤々舎）、『ATO 跡』（between the books、2009）。2015 年、2019 年には『ベストエッセイ』（光村図書）にエッセイが収録。
 他に、『コレクション 戦争×文学』（集英社）、『木の戦い』（エクリ）をはじめ、書籍の題字も多数手がける。

以上

金子 富之

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://www.kanekotomiyuki.com/>

Instagram: [@kanekotomiyuki](https://www.instagram.com/kanekotomiyuki)

1978 年、埼玉県に生まれる。幼少の頃より土俗的な精神世界に興味があり、遠野物語への関心から東北芸術工科大学に進学。現在も山形を拠点に活動し、妖怪や精霊、神々など、目に見えない精神的な存在の実体化を続けている。2015 年には文化庁新進芸術家海外研修制度により、アンコール・ワットで知られるカンボジアのシェムリアップに滞在。上座部仏教やヒンドゥー教、精霊信仰などの造形美術に触れ、スケッチを重ねた。2021 年に開催された個展「辟邪の虎」では、疫鬼を退治する善神を描いた「辟邪絵」として、縦横 4 メートルを超える大作を発表し、注目を集めた。

略歴

- 1978 埼玉県生まれ
- 2003 東北芸術工科大学 美術科日本画コース卒業
- 2006 東北芸術工科大学大学院 日本画研究領域修了
- 2009 東北芸術工科大学大学院 芸術工学研究科博士課程修了
- 現在 山形県を拠点に活動

主な個展・二人展

- 2006 「旧三中分校金子富之妖怪画展」旧三中分校（山形）
「日本伝 大妖怪画展」上山体育文化センター（山形）
- 2011 「－妖怪奇譚－」日本橋高島屋 6 階美術画廊 X（東京）
「妖怪実体化」ミヅマ・アクション（東京）
- 2013 「－妖怪奇譚 II－」日本橋高島屋 6 階美術画廊 X（東京）
- 2014 「森と人とのミステリウム」大和川酒蔵北方風土館（福島）
- 2015 「－精霊・神仏奇譚－」日本橋高島屋 6 階美術画廊 X（東京）
「東北妖怪画展」山王アートキャンパス 2015 [鶴岡市各所]（山形）
- 2016 「－精霊・神仏奇譚－金子富之展」山王アートキャンパス 2016 [旧風間家住宅 丙申堂]（山形）
- 2017 「荒ぶる神々」ミヅマアートギャラリー（東京）
「－アジアの神々－」ギャラリー桜林、常陸国出雲大社（茨城）
- 2021 「辟邪の虎」ミヅマアートギャラリー（東京）

主なグループ展

- 2003 「ウロボロス」 AXIS Gallery (東京)
- 2007 「光と闇」 ギャラリーf 分の1 (東京)
- 2008 「Myth in us | 私たちの神話」 トータル美術館 (ソウル、韓国)
「第7回菅楯彦大賞展」 倉吉博物館 (鳥取)
- 2010 「META X 2010」 東京日本橋高島屋美術画廊 X (東京)
「META II 2010」 神奈川県民ホールギャラリー (神奈川)
- 2011 「META X 2011」 東京日本橋高島屋 6 階美術画廊 X (東京)
「七間」 Mizuma & One Gallery (北京、中国)
「META II 2011」 神奈川県民ホールギャラリー (神奈川)
- 2012 「ジパング展—沸騰する日本の現代アート—」 新潟県立万代島美術館 (新潟) 他巡回
「Look East!」 Mizuma Gallery (ギルマンバラックス、シンガポール)
- 2013 「今日の墨表現展」 佐藤美術館 (東京)
「Imago Mundi」 Fondazione Querini Stampalia (ヴェニス、イタリア)
「東北画は可能か? ~まなざしの解放~」 ARTZONE (京都)
- 2014 「Archipelagoes」 Mizuma Gallery (ギルマンバラックス、シンガポール)
「妖怪と文学・美術」 山寺芭蕉記念館 (山形)
「高島屋幻想博物館」 日本橋高島屋 6 階美術画廊 X (東京) 他巡回
「Impacts! 勢み Japan Art Festival」 ZANE BENNETT Contemporary Art (サンタフェ、アメリカ)
- 2015 「妖怪と文学・美術—“もののけ”表現の歴史と美—」 山寺芭蕉記念館 (山形)
「Further Towards the Future」 Mizuma Gallery (ギルマンバラックス、シンガポール)
「東北画は可能か? 地方之国現代美術展」 T-Art Gallery (東京)
- 2016 「Impacts! 勢み」 ギャラリー桜林、常陸国出雲大社 (茨城)
「Imago Mundi」 Pratt Institute (ニューヨーク、アメリカ)
「妖怪と文学・美術」 山寺芭蕉記念館 (山形)
「異界をひらく 百鬼夜行と現代アート」 秋田県立美術館 (秋田)
「オソレイズム」 はじまりの美術館 (福島)
「妖/怪~あやかし~展」 parabolica-bis (東京)
「19th DOMANI・明日展」 国立新美術館 (東京)
- 2017 「詩情の森 語りかたられる空間」 KAAAT 神奈川芸術劇場 (神奈川)
「SERPRNTIform」 Art Science Museum (ベイフロントアベニュー、シンガポール) 他巡回
「山形で生まれる日本画」 悠創館 (山形)
- 2018 「第7回東山魁夷記念 日経日本画大賞展」 上野の森美術館 (東京)
「山のような100ものがたり 山形ビエンナーレ 2018」 東北芸術工科大学 (山形)
「幻成する狂気」 山形ビエンナーレ関連展示、蟹仙洞 (山形)
- 2019 「META—日本画のワイルドカード」 神奈川県民ホール (神奈川)
「数寄景/NEW VIEW」 阪急うめだギャラリー (大阪) 他巡回
「高橋コレクション展 アートのふるさと」 鶴岡アートフォーラム (山形)

- 2020 「Seven Artists」 松坂屋美術館（愛知）
「福島ビエンナーレ 2020 風月の芸術祭 in 白河」 常宣寺（福島）
- 2021 「META」 神奈川県民ホール（神奈川）
「妖怪・もののけ物語 一鬼退治伝説から幸福をよぶ霊獣まで」 山寺芭蕉記念館（山形）
「浮世絵劇場 from Paris」 角川武蔵野ミュージアム（埼玉）
- 2022 「パンとサーカス展」 ミヅマアートギャラリー（東京）
「たえて日本画のなかりせば：東京都美術館篇」 東京都美術館（東京）
「今昔 妖怪・もののけ展 一異界探訪 鬼退治伝説から呪術師まで」 山寺芭蕉記念館（山形）
「福島ビエンナーレ 2022 風月の芸術祭 in 白河」 龍興寺（福島）

主な受賞歴

- 2006 第4回怪大賞 しょうれい賞
2018 第7回東山魁夷記念 日経日本画大賞 入選

以上

熊澤 未来子

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://mizuma-art.co.jp/artists/kumazawa-mikiko/>

Facebook: <https://ja-jp.facebook.com/mikiko.kumazawa/>

1983 年、愛知県に生まれる。武蔵野美術大学で日本画を学び、鉛筆による平面作品を制作。虚実混交した現代社会の幻影を、モノクロームの巨大空間のなかに緻密に描きこんだ作品で注目を集める。近年は彩色を施した作品を発表。第 9 回菅楯彦大賞ほか受賞多数。

略歴

- 1983 愛知県生まれ
- 2006 武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒業
- 2008 武蔵野美術大学大学院美術専攻日本画コース修了

主な個展

- 2008 「PARANOID WORLD」 Gallery Art Composition (東京)
- 2009 「第 1 回世田谷区芸術アワード“飛翔”受賞発表 熊澤未来子作品展」
世田谷美術館区民ギャラリー (東京)
- 2010 ミヅマ・アクション (東京)
- 2011 「27」 第一生命ギャラリー (東京)
武蔵野美術大学 gFAL (東京)
- 2015 「咆哮」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2017 「いったり、きたり」 ミヅマアートギャラリー (東京)

主なグループ展

- 2006 「カウパレード東京 in 丸の内 2006」 (東京)
- 2008 「第 7 回菅楯彦大賞展」 倉吉美術館 (鳥取)
- 2010 「第 29 回損保ジャパン美術財団 選抜奨励賞展」 損保ジャパン東郷青児美術館 (東京)
「群馬青年ビエンナーレ 2010」 群馬県立近代美術館 (群馬)
釜山ビエンナーレ 2010 特別展「Now! Asian Artists」 (韓国)
TOKYO DESIGNERS WEEK2010「ジャラパゴス展」 (東京)
- 2011 「第 14 回岡本太郎現代芸術大賞展」 川崎市岡本太郎美術館 (神奈川)
「VOCA 展 2011」 上野の森美術館 (東京)

- 2012 「第8回菅楯彦大賞展」 倉吉美術館（鳥取）
「ジパング展－沸騰する日本の現代アート－」 新潟県立万代島美術館（新潟）
- 2013 「高橋コレクション展 マインドフルネス！」 鹿児島県霧島アートの森（鹿児島）ほか巡回
- 2014 「美少女の美術史」 青森県立美術館（青森）ほか巡回
「進撃の巨人展」 上野の森美術館（東京）
- 2015 「絵の始まり 絵の終わり－下絵と本画の物語」 武蔵野美術大学美術館（東京）
「Further towards the Future」 Mizuma Gallery（ギルマンバラックス、シンガポール）
「メッセージズ－高橋コレクション」 十和田市現代美術館（青森）
「COSMOS\INTIME ～内なる宇宙-高橋コレクション展」 パリ日本文化会館（フランス）
- 2016 「第9回菅楯彦大賞展」 倉吉博物館（鳥取）
「Seeing the Unseen」 ギャラリー桜林（茨城）
- 2017 「Musashino Art University DEGREE SHOW」 佐藤美術館（東京）
- 2019 「Hopes & Dialogues in Rumah Kijang Mizuma」
Mizuma Gallery（ギルマンバラックス、シンガポール）
「第21回雪梁舎フィレンツェ賞展」 雪梁舎美術館（新潟）
- 2020 「Within Sight」 Mizuma & Kips（ニューヨーク、アメリカ）
- 2022 「パンとサーカス」 ミヅマアートギャラリー（東京）
「Features」 ギャラリー桜林（茨城）

主な受賞歴

- 2006 「カウパレード東京 in 丸の内 2006」 入選
- 2008 「武蔵野美術大学大学院修了制作」 優秀賞
「第7回菅楯彦大賞展」（倉吉博物館）佳作
「第1回世田谷区芸術アワード」 “飛翔”
- 2010 「群馬青年ビエンナーレ 2010」 入選
- 2011 「第14回岡本太郎記念現代芸術大賞」 入選
「VOCA展 2011」 佳作
- 2012 「第8回菅楯彦大賞」（倉吉博物館）佳作
- 2016 「第9回菅楯彦大賞」（倉吉博物館）大賞
- 2019 「第21回雪梁舎フィレンツェ賞」 佳作

以上

操上 和美

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.kurigami.net/>

1936 年、北海道に生まれる。1961 年東京総合写真専門学校卒業後、『住まいと暮らしの画報』編集部入社。1962 年セントラルスタジオに入社し、杉木直也氏に師事。1965 年退社後、フリーランスとなる。1969 年初めてコマーシャルフィルムを手がけ、以後、広告写真にとどまらずフィルムディレクターとしても活躍する。毎日デザイン賞、ADC 会員最高賞、講談社出版文化賞、NY ADC 賞ほか受賞歴多数。

略歴

- 1936 北海道生まれ
- 1961 東京総合写真専門学校卒業

主な個展・二人展

- 1975 「SKY CAMEL」ハートアート（東京）
- 1977 「ONE DAY ONE SHOW」東京デザイナーズスペース（東京）
- 1978 「パームツリーパームツリー」伊勢丹（東京）＊湯川輝彦との二人展
- 1980 ONE WEEK ONE SHOW「華景色」東京デザイナーズスペース（東京）
- 1984 「陽と骨」パルコパート 1（東京）
- 1989 「KAZUMI KURIGAMI PHOTOGRAPHS-CRUSH」原美術館（東京）
「Photographis 欲望の眼」ggg（東京）
- 1992 「RobertFrank 回遊」横尾茂ギャラリー（東京）
- 2000 「Big Time」エプサイト（東京）
「タイムトンネルシリーズ Vol.12：写真家操上和美」
第一部 ガーディアン・ガーデン&クリエーションギャラリーG8（東京）
- 2001 「タイムトンネルシリーズ Vol.12：写真家操上和美」
第二部 ガーディアン・ガーデン&クリエーションギャラリーG8（東京）
- 2002 「風景 passage」横田茂ギャラリー（東京）
「NORTHERN」エプサイト（東京）
「写真家・操上和美の世界」富良野市生涯学習センター（北海道）
- 2004 「NORTHERN 北の風景」JCII PHOTO SALON（東京）
- 2009 「Diary」ライカ銀座店（東京）
- 2011 「陽と骨 II」taka ishii gallery（東京）
- 2012 「男の利き手」IDOL（東京）

- 「a trip in death at my house 私の家の死を彷徨う旅」Impossible project space（東京）
 「操上和美一時のポートレート ノスタルジックな存在になりかけた時間。」東京都写真美術館（東京）
 2013 「荒木経惟×操上和美 うつせみの鏡 時空の舟 ―我・夢・影―」万葉文化館（奈良）
 「PORTRAIT」Gallery 916（東京）
 2015 「SELF PORTRAIT」B Gallery（東京）
 2016 「操上和美 × コシノヒロコ」KH ギャラリー銀座（東京）
 「DEDICATED ― 首藤康之」art space AM（東京）
 「Lonesome Day Blues」キヤノンギャラリーS（東京）
 2020 「April」Taka Ishii Gallery（東京）

主な受賞歴

- 1964 APA 奨励賞
 1970 ACC 賞（レナウン「ジョンプル」、ペプシ）
 1975 第 19 回 ADC 最高賞（ラングラー「ラングラーギャルズ」）
 1977 第 21 回 ADC 賞（日産「フェアレディ Z」）
 1978 第 22 回 ADC 賞（ソニー「JACKAL」）
 1979 第 23 回 ADC 賞（あいミュージック『SADAO WATANABE』）
 1980 第 24 回 ADC 会員賞（サントリー開高健）
 1981 第 12 回講談社出版文化賞写真賞（小林麻美のヌードを撮ったシリーズ「裸婦」）
 1984 第 28 回 ADC 賞（桎山「YMCA」／新潮社「新潮文庫」）
 1985 第 29 回 ADC 会員賞（はせがわ）
 1987 第 31 回 ADC 会員最高賞（ブリヂストン「レグノ」CF）
 1988 第 34 回毎日デザイン賞（CF にみる映像表現）
 ACC 杉山賞
 1989 第 33 回 ADC 会員賞（西武「お手本は自然界」）
 1990 第 6 回東川賞特別賞
 1992 第 36 回 ADC 会員賞（NTT データ通信「未来のドアがそこにある」）
 1994 第 38 回 ADC 賞（資生堂「アンジェリーク」）
 1997 日本宣伝賞山名賞

以上

桑田 卓郎

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://www.takurokuwata.com/>

1981 年、広島県に生まれる。京都嵯峨芸術大学短期大学部を卒業後、2002 年より陶芸家の財満進に師事。多治見市陶磁器意匠研究所を修了し、現在は岐阜県多治見市を拠点に活動。器面が縮れた「梅華皮（かいらぎ）」や素地に石や砂を混ぜて表面に露出させる「石爆（いしはぜ）」などの陶芸の技術と、「わび・さび」「ひょうげ」といった日本独自の美意識に基づき、伝統と現代の感性を融合させたカラフルでポップな陶芸作品やオブジェを手がけている。ニューヨーク、ブリュッセル、ロンドンなど世界各地で展覧会が開かれ、ファッションブランドの LOEWE の 2020 年秋冬コレクションでは、コラボレーションも行った。主なパブリックコレクションに、ルベル・コレクション、パームスプリングス美術館、金沢 21 世紀美術館、ミシガン大学美術館など。

略歴

- 1981 広島県生まれ
- 2001 京都嵯峨芸術大学短期大学部美術学科陶芸コース卒業
- 2002 陶芸家、財満進氏に師事
- 2007 多治見市陶磁器意匠研究所修了

主な個展

- 2013 「Flavor of Nature」 Salon 94 Bowery（ニューヨーク、アメリカ）
滋賀県立陶芸の森 陶芸館ギャラリー（滋賀）
- 2014 「From Nature」 Pierre Marie Giraud（ブリュッセル、ベルギー）
- 2015 草月会館石庭「天国」（東京）
「Dear Tea Bowl」 Salon 94 Freemans（ニューヨーク、アメリカ）
- 2016 「From Tea Bowl」 Alison Jacques Gallery（ロンドン、英国）
- 2017 「Good Morning, Tea Bowl」 Pierre Marie Giraud（ブリュッセル、ベルギー）
「I'm Home, Tea Bowl」 KOSAKU KANECHIKA（東京）
- 2018 「TAKURO KUWATA meets Trading Museum COMME des GARÇONS」
Trading Museum COMME des GARÇONS（東京）
「Are You Going Out, Tea Bowl?」 Galeria Mascota（メキシコシティ、メキシコ）
- 2019 「Dear Tea Bowl, Horsetails are in season in Hagi.」 山口県立萩美術館・浦上記念館（山口）
「日々」 音羽山清水寺（京都）
「today」 Pierre Marie Giraud（ブリュッセル、ベルギー）
- 2020 「Hi Tea Bowl, I'm in Paris.」 Pierre Marie Giraud（パリ、フランス）

- 2021 「ZUNGURIMUKKURI」 Salon 94 (ニューヨーク、アメリカ)
「TEE BOWL」 KOSAKU KANECHIKA (東京)

主なグループ展

- 2011 「東海現代陶芸 思考する新世代展」 愛知県陶芸資料館 (愛知)
2012 「工芸未来派」 金沢 21 世紀美術館 (石川)
2013 「現代の名碗」 菊池寛実記念智美術館 (東京)
2015 「Japanese Kōgei | Future Forward」 Museum of Arts and Design (ニューヨーク、アメリカ)
2017 「“うつわ”ドラマチック」 滋賀県立陶芸の森 (滋賀)
「村上隆のスーパーフラット現代陶芸考」 十和田市現代美術館 (青森)
「PUNK 工芸 — 魂の救済」 茨城県陶芸美術館 (茨城)
2018 「バブルラップ」 熊本市現代美術館 (熊本)
2019 「CERAMIC MOMENTUM - Staging the Object」
CLAY Museum of Ceramic Art (ミゼルフアート、デンマーク)
2020 「和巧絶佳」 パナソニック汐留美術館 (東京)
「近代陶芸 陶芸家たちの古典復興」 ポーラ美術館 (神奈川)
2021 「北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2021」 大瀧神社・岡太神社 (福井)
2022 「Strange Clay: Ceramics in Contemporary Art」 Hayward Gallery (ロンドン、英国)

主な受賞歴

- 2006 第 6 回益子陶芸展 濱田庄司賞
2008 第 26 回朝日現代クラフト展 奨励賞
第 8 回国際陶磁器展美濃 美濃賞
2009 第 17 回テーブルウェア大賞 大賞・経済産業大臣賞
2018 LOEWE Craft Prize 2018 特別賞
2022 日本陶磁協会賞

以上

鴻池 朋子

ドローイング、旅、彫刻、歌、毛皮、アニメーション、絵本など様々なメディアを通して作品を制作。山小屋での「美術館ロッジ」、島での散策路「リングワンデルング」や「逃走階段」などのサイトスペシフィックな制作、また耳の聞こえない方との「筆談ダンス」、目の見えない方との鑑賞「みる誕生会」、手芸で語る「物語るテーブルランナー」など様々な活動を通して芸術の根源的な問い直しを続けている。

主な個展

- 2009 「インタートラベラー 神話と遊ぶ人」 オペラシティアートギャラリー（東京）
*霧島アートの森美術館（鹿児島）巡回
- 2016 個展「根源的暴力」神奈川県民ホール（神奈川）
*群馬県立近代美術館（群馬）、新潟県立万代島美術館巡回（新潟）
- 2018 「Fur Story」 Leeds Arts University（リーズ、英国）
「ハンターギャザラー」秋田県立近代美術館（秋田）
- 2020 「ちゅうがえり」アーティゾン美術館（東京）
- 2022 「みる誕生」高松市美術館（香川）、静岡県立美術館（静岡）
*2024 年青森県立美術館（青森）
など。

主なグループ展

- 2016 「Temporal Turn」カンザス大学スペンサー美術館・自然史博物館（ローレンス、アメリカ）
- 2017 「Japan: Spirits of Nature」ノルディスカアクヴァレル美術館（スカルハムン、スウェーデン）
- 2018 「ECHOES FROM THEPAST」シンカ美術館（ケラバ、フィンランド）
- 2019 「瀬戸内国際芸術祭」大島（香川）
- 2020 「古典×現代 2020 時空を超える日本のアート」国立新美術館（東京）
- 2022 「瀬戸内国際芸術祭」大島（香川）
- 2022 「seven/seven」ファーガス・マカフリーTokyo（東京）
- 2022 「Storymakers in Contemporary Japanese Art」
国際交流基金シドニー日本文化センター（シドニー、オーストラリア）
など。

主な受賞歴

- 2016 年度 芸術選奨文部科学大臣賞受賞（個展「根源的暴力」）
- 2020 年度 毎日芸術賞受賞（「ちゅうがえり」）

著書

絵本『みみお』（青幻舎）、絵本『焚書 World of Wonder』、『どうぶつのことば』（共に羽鳥書店）など。

以上

指田 菜穂子

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://www.nishimura-gallery.com/nahoko-sashida/>

1983 年、埼玉県に生まれる。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、東京大学大学院総合文化研究科修了。早稲田大学在学中から「GEISAI」等で作品発表を行い、2012 年には第 4 回絹谷幸二賞奨励賞を受賞。「絵で百科事典をつくる」というコンセプトのもと、ある言葉から連想されるさまざまな事象を、一枚の絵の中に高い構成力で配置し、その言葉が潜在的及び派生的に持つ広汎なイメージを鮮やかな色調で描き出している。

略歴

1983	埼玉県生まれ
2006	早稲田大学政治経済学部政治学科卒業
2009	東京大学大学院総合文化研究科修了
現在	東京を拠点に活動

主な個展

2006	「指田菜穂子 個展」 Gallery unseal（東京）＊以降、2007 年に個展開催
2011	「指田菜穂子」 西村画廊（東京）
2016	「十二支」 西村画廊（東京）
2022	「日本文学大全集 1901-1925」 西村画廊（東京）

主なグループ展

2005	「GEISAI #7」 東京ビッグサイト（東京）
2006	「GEISAI #10」 東京ビッグサイト（東京）
2008	「September Show」 西村画廊（東京）＊以降、2010、12 年に開催
2011	「Summer Show」 西村画廊（東京）＊以降、2013、17、18 年に開催
2012	「ON PAPER」 西村画廊（東京） 「35 年＋」 西村画廊（東京）
2013	「New Year New Works」 西村画廊（東京）
2014	「VOCA 展 現代美術の展望-新しい平面の作家たち」 上野の森美術館（東京） 「西村画廊 40 周年記念展」 西村画廊（東京）
2015	「40 年プラス」 西村画廊（東京） 「今どきアート～コレクターI 氏の密やかな楽しみ～」

富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館（群馬）

2019 「西村画廊コレクション展 45 Anniversary」西村画廊（東京）

「45 周年記念展 New Works」西村画廊（東京）

2020 「Tokyo 2020 Summer」西村画廊（東京）

主な受賞歴

2006 GEISAI #10 スカウト審査員賞（六本木ヒルズ アート アンド デザイン ストア賞）受賞

2012 第4回絹谷幸二賞奨励賞 受賞

以上

菅 木志雄

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.kishiosuga.com/>

<http://tomiokoyamagallery.com/artists/kishio-suga/>

1944 年、岩手県に生まれる。多摩美術大学で斎藤義重に師事。李禹煥や関根伸夫などとともに、「もの派」を代表するアーティストとして知られる。木や石、金属などの自然物・人工素材を、加工せずに空間に配置し、そこで生まれる光景を「状況（景）」と呼んで作品化してきた。1973 年からは、ものを新たに置きかえて空間を活性化させる、「アクティヴェイション」と呼ぶ行為を展開。これまで数多くの個展・グループ展に参加してきたが、2012 年にニューヨーク近代美術館で行われた「Tokyo 1955-1970 : A New Avant-Garde」、ロサンゼルス Blum & Poe で行われた「太陽へのレクイエム：もの派の美術」への参加をきっかけに、アメリカにおける再評価の機運が高まった。ポンピドゥー・センター（フランス）、テート・モダン（英国）、ニューヨーク近代美術館（アメリカ）、M+（中国）、東京国立近代美術館（東京）ほか、国内外の数多くの美術館に作品が収蔵されている。

略歴

1944	岩手県生まれ
1968	多摩美術大学絵画科卒業
現在	静岡県を拠点に活動

主な個展

1968	「積層空間」作家アトリエ（神奈川） 「転移空間」椿近代画廊（東京）
1997	「菅木志雄」広島市現代美術館（広島）ほか巡回
1998	「対話篇 菅木志雄展」山口県立美術館（山口）
1999	「菅木志雄—スタンス」横浜美術館（神奈川）
2005	「揺らぐ体空 菅木志雄 インスタレーション」岩手県立美術館（岩手）
2014	「菅木志雄」ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
2015	「菅木志雄 置かれた潜在性」東京都現代美術館（東京）
2016	「Kishio Suga」Dia: Chelsea（ニューヨーク、アメリカ） 「Situations」Pirelli Hangar Bicocca（ミラノ、イタリア）
2021	「開館 20 周年記念 菅木志雄展 〈もの〉の存在と〈場〉の永遠」岩手県立美術館（岩手）

主なグループ展

- 1967 「第 11 回 シェル美術賞展」 白木屋（東京）＊京都市美術館（京都）に巡回
- 1970 「第 5 回 ジャパン・アート・フェスティバル」 東京国立近代美術館（東京）
＊グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）に巡回
- 1971 「第 4 回現代日本彫刻展 強化プラスチックによる」 宇部市野外彫刻美術館（山口）
- 1973 「第 8 回パリ青年ビエンナーレ」 パリ市立近代美術館（パリ、フランス）
- 1976 「第 2 回シドニー・ビエンナーレ」 ニューサウスウェールズ美術館（シドニー、オーストラリア）
- 1978 「第 38 回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館」（ヴェネツィア、イタリア）
- 1981 「第 16 回サンパウロ・ビエンナーレ」 Parque Ibirapuera（サンパウロ、ブラジル）
- 1984 「現代美術の動向Ⅲ 1970 年以降の美術—その国際性と独自性」 東京都美術館（東京）
- 1986 「前衛芸術の日本 1910-1970」 ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）
- 1987 「もの派とポストもの派の展開 1969 年以降の日本の美術」 西武美術館（東京）
- 1988 「Monoha: La scuola delle cose」 ローマ大学付属現代美術実験美術館（ローマ、イタリア）
- 1989 「第 20 回ミデルハイム・ビエンナーレ・ジャパン ユーロパラ '89」
ミデルハイム野外彫刻美術館（アントワープ、ベルギー）
- 1992 「70 年代日本の前衛 抗争から内なる葛藤へ」 ボローニャ市立近代美術館（ボローニャ、イタリア）
＊世田谷美術館（東京）に巡回
- 1995 「1970 年—物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち」 岐阜県美術館（岐阜）ほか巡回
- 2001 「Mono-ha: School of Things」 Kettle's Yard Gallery（ケンブリッジ、英国）
＊Newlyn Art Gallery（ニューリン、英国）に巡回
- 2005 「もの派—再考」 国立国際美術館（大阪）
- 2012 「Requiem for the Sun: The Art of Mono-ha」 Blum & Poe（ロサンゼルス、アメリカ）
＊Gladstone Gallery（ニューヨーク、アメリカ）に巡回
- 2016 「カーラ・ブラック&菅木志雄: A New Order」
スコットランド国立近代美術館（エディンバラ、英国）
- 2017 「Viva Arte Viva」 第 57 回ヴェネチア・ビエンナーレ、イタリア
- 2019 「横浜美術館開館 30 周年記念 Meet the Collection —アートと人と、美術館」 横浜美術館（神奈川）
- 2022 「JAPAN. BODY_PERFORM_LIVE: Resistance and Resilience in Japanese Contemporary Art」
PAC Padiglione d'Arte Contemporanea（ミラノ、イタリア）

主な受賞歴

- 1967 第 11 回シェル美術賞展 1 等賞
- 1970 第 5 回ジャパン・アート・フェスティバル大賞
- 2016 毎日芸術賞

以上

杉本 博司

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.sugimotohiroshi.com/>

Facebook: <https://www.facebook.com/odawaraaf> (小田原文化財団)

Instagram: https://www.instagram.com/enoura_observatory/?hl=ja (小田原文化財団)

Twitter: https://twitter.com/odawara_af (小田原文化財団)

1948 年東京都生まれ。1970 年渡米。1974 年よりニューヨーク在住。70 年代後半から、自然史博物館に展示されている動物の剥製などを撮影した「ジオラマ」、映画館のスクリーンに投影される映画の、始まりから終わりまでを 1 枚の写真に収めた「劇場」、世界各地の海をミニマルな構図で表現した「海景」など、高度な技術と確かなコンセプトに基づいた写真作品を発表し、高い評価を得た。また、自身の蒐集品と写真作品を組み合わせて展示する、「歴史の歴史」展の流れは、2003 年の東京メゾン・エルメスでの「歴史の歴史」展を皮切りに、パレ・ド・トーキョーでの「LOST HUMAN」展に結実した（同展は 2016 年に東京都写真美術館へ巡回）。2008 年に建築設計事務所「新素材研究所」、2009 年に公益財団法人小田原文化財団を設立。2017 年 10 月には小田原文化財団 江之浦測候所が開館。

略歴

1948	東京都生まれ
1970	立教大学卒業
1974	ロサンゼルスのアートセンター・カレッジ・オブ・デザインを卒業
1988	毎日芸術賞
2009	公益財団法人小田原文化財団を設立
2001	ハッセルブラッド国際写真賞受賞
2010	秋の紫綬褒章受章
2013	フランス芸術文化勲章オフィシエ叙勲
2017	文化功労者

主な個展

1977	「杉本博司」南画廊（東京）
1988	「杉本博司：ジオラマ、劇場、海景」ソナベンド・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ） 「杉本博司写真展」佐賀町エキジビット・スペース／ツァイト・フォト・サロン（東京）
1989	「近作展 5—杉本博司」国立国際美術館（大阪）
1991	「杉本博司：Time Exposed」 佐賀町エキジビット・スペース／佐賀町 BIS、IBM 箱崎ビル前庭（東京）

- 1992 「杉本博司：Time Exposed」 CAPC ボルドー現代美術館（ボルドー、フランス）
- 1994 「杉本博司」 ロサンゼルス現代美術館（ロサンゼルス、アメリカ）
- 1995 「杉本博司：Time Exposed」 クンストハレ・バーゼル（バーゼル、スイス）
 「Still Life」 ギャラリー小柳（東京）
 「杉本博司」 メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）／
 ヒューストン・コンテンポラリー・アート・美術館（ヒューストン、アメリカ/*1996）／
 ハラ ミュージアム アーク（群馬/*1996）／
 アクロン美術館（オハイオ州、アメリカ/*1997）
- 1996 「杉本博司：写真」 スtockホルム近代美術館（ストックホルム、スウェーデン）
- 2000 「杉本博司：ポートレート」 ドイツ・グッゲンハイム美術館（ベルリン、ドイツ）／
 ビルバオ・グッゲンハイム美術館（ビルバオ、スペイン）
- 2013 「杉本博司」 サムスン美術館リウム（ソウル、韓国）
- 2014 「ロスト・ヒューマン・ジェネティック・アーカイブ」 パレ・ド・トーキョー（パリ、フランス）
 「杉本博司：Past Tense」 The J. Paul Getty Museum（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2016 「杉本博司 ロスト・ヒューマン」 東京都写真美術館（東京）
- 2018 「杉本博司：Still Life」 ベルギー王立美術館（ブリュッセル、ベルギー）
 「SUGIMOTO VERSAILLES Surface of Revolution」
 トリアノン、ヴェルサイユ宮殿（ヴェルサイユ、フランス）
 「信長とクアトロ・ラガッツィ 桃山の夢と幻+杉本博司と天正遣欧使節が見たヨーロッパ」
 MOA 美術館（静岡）
 「クアトロ・ラガッツィ 桃山の夢と幻+杉本博司と天正遣欧使節が見たヨーロッパ」
 長崎県美術館（長崎）
- 2020 「飄々表具 -杉本博司の表具表現世界-」 細見美術館（京都）
 「杉本博司 瑠璃の浄土」 東山キューブ、京都市京セラ美術館（京都）
 「Past Presence」 ギャラリー小柳（東京）
- 2021 「OPTICKS」 ギャラリー小柳（東京）
- 2022 特別展 春日若宮式年造替奉祝「杉本博司- 春日神霊の御生 御蓋山そして江之浦」
 春日大社国宝殿（奈良）
 「杉本博司 本歌取り- 日本文化の伝承と飛翔」 姫路市立美術館（兵庫）
 「春日神霊の旅 -杉本博司 常陸から大和へ」 神奈川県立金沢文庫（神奈川）
- 2023 「本歌取り 東下り」 渋谷区立松濤美術館（東京）

主なグループ展

- 1978 「新収蔵品展」 ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 1987 「アメリカにおける日本現代美術（1）：アリタ、ナカガワ、スギモト」
 ジャパン・ソサエティー・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）
- 1990 「写真の過去と現在」 東京国立近代美術館（東京）

- 1991 「キャビネット・オブ・サインズ：ポストモダン日本の現代美術」
テート・ギャラリー・リバプール（リバプール、英国）
- 2000 「ゲンダイ：日本現代美術—身体と空間の間」
ウジャドゥスキー城現代美術センター（ワルシャワ、ポーランド）
- 2020 「STARS 展：現代美術のスターたち—日本から世界へ」 森美術館（東京）

以上

須田 悦弘

1969 年、山梨県に生まれる。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業後、独学で木彫の技術を学ぶ。ホノキを素材として、日本画の顔料で彩色された、本物と見間違えるほど精巧な植物を制作し、それを様々な場所に展示することで、その空間全体を作品へと変容させるインスタレーションで知られる。ポンピドゥー・センター（フランス）、レンバツハハウス美術館（ドイツ）、サムスン美術館リウム（韓国）、原美術館（東京）、国立国際美術館（大阪）、金沢 21 世紀美術館（石川）ほか、国内外の数多くの美術館に作品が収蔵されている。

略歴

1969	山梨県生まれ
1992	多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業
現在	東京を拠点に活動

主な個展・二人展

1993	「銀座雑草論」銀座 1-4 丁目パーキングメーター（東京）
1999	「ハラドキュメント 6：須田悦弘 泰山木」原美術館（東京）
2002	「須田悦弘」群馬県立近代美術館（群馬） 「水の流れ、水の重なり」アサヒビール大山崎山荘美術館（京都）
2003	「Focus：Yoshihiro Suda」The Art Institute of Chicago（シカゴ、アメリカ）
2004	「Yoshihiro Suda」Palais de Tokyo（パリ、フランス）
2006	「三つの個展：伊藤存、今村源、須田悦弘」国立国際美術館（大阪） 「須田悦弘展」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
2012	「須田悦弘展」千葉市美術館（千葉）
2017	「Flower Non-Flower：Suda Yoshihiro」Yu-Hsiu Museum of Art（南投県、台湾）
2018	「須田悦弘 ミテクレマチス」ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
2019	「刀尖的優雅 船越桂／須田悦弘」AKI GALLERY（台北、台湾）
2020	「栗田宏一・須田悦弘展」山梨県立美術館（山梨）
2023	「須田悦弘 補作と模作の模索」ギャラリー小柳（東京）＊ロンドンギャラリー白金と同時開催

主なグループ展

2002	「エモーショナル・サイト」佐賀町食糧ビル（東京）
2004	「21 世紀の出会い：共鳴、ここ・から」金沢 21 世紀美術館（石川）
2007	「花咲くころ：モネ、ルノワールから須田悦弘、澤登恭子まで」 アサヒビール大山崎山荘美術館（京都）

- 「Out of the Ordinary: Spectacular Craft」 V&A Museum（ロンドン、英国）ほか巡回
- 2008 「ネオテニー・ジャパン：高橋コレクション」 鹿児島県霧島アートの森（鹿児島）ほか巡回
- 2009 「睡蓮池のほとりにて：モネと須田悦弘、伊藤存」 アサヒビール大山崎山荘美術館（京都）
- 2012 「Lifelike」 The Walker Art Center（ミネアポリス、アメリカ）ほか巡回
- 2017 「茶の湯」 東京国立博物館（東京）
- 2018 「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」 国立国際美術館（大阪）

以上

関根 伸夫

関連 URL・SNS 情報

Web: <http://www.nobuosekine.com/>

1942 年、埼玉県に生まれる。多摩美術大学で斎藤義重に師事。李禹煥や菅木志雄などとともに、「もの派」を代表するアーティストとして知られる。1968 年、神戸須磨離宮公園現代彫刻展に出品した《位相一大地》は、もの派の先駆的、代表的な作品として国際的に高く評価されている。1970 年、荒川修作とともにヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表に選出され、《空相》を発表。その後「公共空間を活性化させるアート」に関心を移し、1973 年、環境美術研究所を設立。公共彫刻、環境彫刻の分野で活躍した。主なパブリックコレクションに、ルイジアナ近代美術館（デンマーク）、クレラー・ミュラー美術館（オランダ）、国立国際美術館（大阪）、豊田市美術館（愛知）ほか。

略歴

- 1942 埼玉県生まれ
- 1968 多摩美術大学大学院油画研究科修了
- 2019 アメリカ、カリフォルニア州にて逝去

主な個展

- 1969 東京画廊（東京、1973, 1977, 1980, 1987, 1992）
- 1978 - 1979 「Nobuo Sekine: Skulptor 1975-1978」
 クンストハレデュッセルドルフ（デュッセルドルフ、ドイツ）
 ＊ルイジアナ近代美術館（コペンハーゲン、デンマーク）、
 クレラー・ミュラー美術館（オッテルロー、オランダ）、
 ヘニイ・オンスタード美術館（オスロ、ノルウェー）に巡回
- 1983 「関根伸夫 + 環境美術研究所」ストライプハウス美術館（東京）
- 1996 「位相一大地の考古学」西宮市大谷記念美術館（兵庫）
- 2003 「〈環境美術〉なるもの－関根伸夫展」川越市立美術館（埼玉）
- 2011 「RE-CREATIONS 1970/2011」鎌倉画廊（神奈川）
 「Monogatari」Shanghai Sculpture Space（上海、中国）
- 2014 Blum & Poe（ロサンゼルス、アメリカ）

主なグループ展

- 1967 「第 11 回 シェル美術賞展」白木屋（東京）＊京都市美術館（京都）に巡回

- 1968 「第5回長岡現代美術館賞展」西武百貨店池袋店（東京）＊長岡現代美術館（新潟）に巡回
1969 「第6回パリ青年ビエンナーレ」（パリ、フランス）
1970 「第35回ヴェネツィア・ビエンナーレ」（ヴェネツィア、イタリア）
1986 「前衛芸術の日本 1910-1970 展」ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）
1994 「戦後日本の前衛美術展」横浜美術館（神奈川）
＊グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）、
サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ、アメリカ）に巡回
1995 「1970年 物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち」岐阜県美術館（岐阜）ほか巡回
2002 「釜山ビエンナーレ 2002」（釜山、韓国）

主な受賞歴

- 1967 第11回シェル美術賞展 佳作
1968 第8回現代日本美術展 コンクール賞
第1回神戸須磨離宮公園現代彫刻展 朝日新聞社賞
第5回長岡現代美術館賞展 大賞
1969 第1回現代国際彫刻展 コンクール賞
第6回パリ青年ビエンナーレ 留学賞

以上

田代 裕基

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://hiroki-tashiro.com/>

Instagram: [@hiroki_tashiro](https://www.instagram.com/hiroki_tashiro)

Facebook: <https://ja-jp.facebook.com/hiroki.tashiro.10/>

1982 年、岐阜県に生まれる。東京造形大学美術学科彫刻専攻を卒業。2014 年、文化庁海外派遣制度により渡独。帰国後、「ちそう菰野」(三重) の経営を経て、2020 年から京都在住。楠で制作する「半獣」や「White Sign」のシリーズ、和紙のちぎり絵、アートと実用を融合させたカトラリーシリーズなど、多彩な作品を発表している。

略歴

1982	岐阜県生まれ
2007	東京造形大学美術学科彫刻専攻卒業
2014	文化庁新進芸術家海外派遣制度により渡独 デュッセルドルフ滞在
現在	京都を拠点に活動

主な個展

2007	「HARMONY (produced by yukari-art)」ギャラリーエス (東京)
2009	「MIND TRAVEL」ユカリアート・コンテンポラリー (東京)
2010	「Inside Out」ユカリアート・コンテンポラリー (東京)
2013	「ミチビカレ」ギャラリー小さい家 (岐阜)
2015	「Form of the time」(デュッセルドルフ、ドイツ)
2016	「Cross Time」Studio T (ドイツ)
2018	「White Sign」侶居 (三重)
2019	「Origin-起源」侶居 (三重)
2020	「すくい」光兎舎ギャラリー (京都)
2020	「さいの間」白沙村荘 橋本関雪記念館 (京都)
2022	「空器」Farmoon (京都)

主なグループ展

2007	「十人十色 by YUKARI ART CONTEMPORARIES」ギャラリーエス (東京)
2008	「幻想的動物王国」ユカリアート・コンテンポラリー (東京)

- 2009 「neo neo 展 Part1 [男子]」 高橋コレクション日比谷（東京）
- 2010 「とよた美術展 2010－Toyota Art Competition 入選作品展」 豊田市美術館（愛知）
- 2013 「ジパング展・沸騰する日本の現代アート」 高崎市美術館（群馬）ほか巡回
- 2017 「Gluess gluen」（メンヒエングラートバッハ、ドイツ）
- 2019 「Harmonic Meditation」 Center for COSMIC WONDER（東京）
- 2021 「地獄谷」 アルケミエ辰巳蒸留所（岐阜）

主な受賞歴

- 2005 「GEISAI#8」 美術手帖賞
- 2006 「公募展第 13 回木彫フォークアート・おおや」 優秀賞
「GEISAI # 10」 yukari-art,inc.賞
- 2007 「東京造形大学 卒業制作展」 ZOKEI 賞

以上

束芋

手書きドローイングと日本の伝統的な木版画思わせる色彩を用いたアニメーション・インスタレーションで知られ、現代日本社会に潜む問題をシュールでシニカルに表現。

2011 年、第 54 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展に日本代表として参加。

2006 年にイスラエルのバットシェバ・ダンス・カンパニーのオハッド・ナハリンとのコラボレーションを皮切りに、様々な舞台コラボレーションに取り組んでいる。

2016 年、映像芝居「錆からでた実」(東京芸術劇場 シアターイースト公演)を演出。この舞台作品は、2020 年に米国 4 都市を巡回した。

2022 年サーカスアーティストヨルグ・ミュラーとのコラボレーション作品「もつれる水滴」が世界初演として日本ツアーを行い、同年秋、フランス 4 都市を巡るツアーを開催。2023 年 4 月より、コペンハーゲンの GL Stand にて個展を開催予定。また 2024 年の公演を目指し、新しい舞台作品を製作中。

略歴

- 1975 兵庫県生まれ
- 1999 「京都造形芸術大学卒業制作展 学長賞」受賞
京都造形芸術大学芸術学部情報デザインコース卒業
「キリン コンテンポラリー・アワード 1999 最優秀作品賞」受賞
「BBCC ネットアート&映像フェスタ 1999 映像部門最優秀作品賞」受賞
- 2001 「平成 12 年度 咲くやこの花賞（美術部門）」受賞
- 2002 「五島記念文化賞美術新人賞」受賞
- 2004 「第 23 回京都府文化賞奨励賞」受賞
- 2005 「第 12 回日本現代芸術奨励賞」受賞
- 2007 「Prix Ars Electronica 2007 Honorary Mentions」(Hybrid Art)
「平成 18 年度 神戸市文化奨励賞」受賞
- 2008 「平成 20 年度タカシマヤ美術賞」受賞
- 2011 「(第 61 回) 芸術選奨新人賞美術部門」受賞
- 2012 「平成 23 年度 兵庫県芸術奨励賞」受賞
- 現在 長野県在住。

主な個展

- 1999 「につぼんの台所 束芋展」立体ギャラリー射手座（京都）
- 2000 「キリン コンテンポラリー・アワード 1999 最優秀作品賞受賞作家 束芋展」
キリンプラザ大阪（大阪）
「につぼんの横断歩道 束芋展」ギャラリー16（京都）

- 2001 「Tabaimo - The Japanese Bathhouse」 チャプター (カーディフ、イギリス)
- 2002 「束芋『にっぽんの御内』展」 IMA: インターネット美術館
- 2003 「お化け屋敷」 原美術館 ザ ホール (東京)
- 「にっぽんのちっちゃい台所」 ギャラリー小柳 (東京)
- 「New Print Work」 HIROMI YOSHII + ギャラリー小柳ヴューイングルーム (東京)
- 「束芋: 夢違え」 ハラ ミュージアム アーク (群馬)
- 「束芋: おどろおどろ」 東京オペラシティアートギャラリー (東京)
- 「束芋のケタケタ」 康ギャラリー (東京)
- 2005 「指弁」 ギャラリー小柳 (東京)
- 「TABAIMO」 James Cohan Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2006 「TABAIMO」 カルティエ現代美術財団 (パリ、フランス)
- 「ヨロヨロン 束芋」 原美術館 (東京)
- 「台所にて」 高橋コレクション (東京)
- 2008 「ハウス」 ギャラリー小柳 (東京)
- 「TABAIMO」 James Cohan Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2009 「断面の世代」 横浜美術館 (横浜)
- 「TABAIMO」 スtockホルム現代美術館 (ストックホルム、スウェーデン)
- 2010 「ててて」 ギャラリー小柳 (東京)
- 「断面の世代」 大阪国立国際 (大阪) 横浜美術館からの巡回展
- 「Tabaimo: Boundary Layer」 パラソル・ユニット (ロンドン、イギリス)
- 「Tabaimo: emerge as」
- シンガポール・タイラー・プリント・インスティテュート (ロバートソンキー、シンガポール)
- 2011 「Tabaimo: DANDAN」 ジェームスコーハンギャラリー (ニューヨーク、アメリカ)
- 2014 「Tabaimo: MEKURUMEKU」 オーストラリア現代美術館 (シドニー、オーストラリア)
- 2015 「息花」 ギャラリー小柳 (東京)
- 「Tabaimo: aitaiei-josei」 アルル・ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団美術館 (アルル、フランス)
- 2016 「Tabaimo: Utsutsushi Utsushi」 シアトル美術館/アジア館 (シアトル、アメリカ)
- 「Tabaimo: Her Room」 サンノゼ現代美術館 (サンノゼ、アメリカ)
- 2018 「ズンテントンチンシャン」 ギャラリーキッドプレス (東京)
- 「flow-wer arrangement」 ギャラリー小柳 (東京)
- 「Clue to Utsushi」 ジェームスコーハンギャラリー (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019 「透明な歪み」 ポーラミュージアムアネックス (東京)
- 「Ghost Running」 ギャラリーキッドプレス (東京)
- 2023 「Nest」 Kunstforeningen GL Strand (コペンハーゲン、デンマーク)

主なグループ展

- 1999 「Exit: international film & video」 チゼンヘイル ギャラリー (ロンドン、イギリス)

- 「神戸アートビュール'99『私⇄』」神戸アートヴィレッジセンター（兵庫）
「キリン コンテンポラリー・アワード 1999 受賞作品展」
キリンビール新川本社（東京）、キリンプラザ大阪（大阪）
「京都造形芸術大学卒業制作展」京都市美術館（京都）
- 2000 「RETINA2000 INTERNATIONAL FILM & VIDEO」セイエ文化センター（セイエ、ハンガリー）
「日本芸術短編映像映画上映展」ドイツ映画博物館（フランクフルト、ドイツ）
「オーバーハウゼン国際短編映画祭」Filmpalast Lichtburg（オーバーハウゼン、ドイツ）
- 2001 「＜現代美術へのいざない＞アフター・イメージ ー残像ー」国立国際美術館（大阪）
「横浜トリエンナーレ 2001ーメガ・ウェイブ 新たな総合に向けて」
横浜赤レンガ倉庫ほか複数会場（神奈川）
「アー・ユー・ミーニング・カンパニー、中村哲也、ナウイン・ラワンチャイクン、束芋」
Rice Gallery by G2（東京）
「混沌から躍り出る星たち 2001」草月ホール（東京）
「ヴァレンシア ビエンナーレ」（ビデオ上映プログラム「VideoRom」出品）
Calles de Valencia ほか複数会場（ヴァレンシア、スペイン）
「IMAGE Festival of Independent Film and Video」
Innis Town Hall ほか複数会場（トロント、カナダ）
「生きろ - be alive」クレラー・ミュージーラ美術館（オッテルロー、オランダ）
- 2002 「ForwArt: a choice」ベルギー王立美術館ほか（ブリュッセル、ベルギー）
「カフェ・イン・水戸」水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）
「第 25 回サンパウロ・ビエンナーレ - 大都市のイコノグラフィー」
Pavilhao Cicillio Matarazzo、イビラプエラ公園（サンパウロ、ブラジル）
- 2003 「束芋×できやよい にっぽんの、ななかむら」キリンプラザ大阪（大阪）
「How Latitudes Become Forms: Art in a Global Age」
ウォーカー アート・センター（ミネアポリス、アメリカ）＊ほか複数会場
- 2004 「未来への回路 - 日本の新世代アーティスト」
ローマ日本文化会館（イタリア）、イタリアほか巡回（国際交流基金企画）
「D-Segni」サンドレッド レ レバウデング美術財団（トリノ、イタリア）
「Mediarena : contemporary art from Japan」
ゴヴェット ブリュースター アートギャラリー（ニュープリマス、ニュージーランド）
「Living Together is Easy」
水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）、ヴィクトリア州立美術館（メルボルン、オーストラリア）
「My Story」The Netherlands Media Art Institute（アムステルダム、オランダ）
- 2005 「Rising Sun, Melting Moon: Contemporary Art in Japan」
イスラエル美術館（エルサレム、イスラエル）
「FUSION: Aspects of Asian Culture in the MUSAC Collection」
MUSAC、カスティージャ イ レオン現代美術館（レオン、スペイン）
「キリンアートプロジェクト 2005」

- タマダプロジェクトアートスペース（東京）、キリンプラザ大阪（大阪）
「Fairy Tales Forever – Homage to H.C. Andersen」
ARoS Aarhus Kunstmuseum（オーフス、デンマーク）
- 2006 「第 15 回シドニービエンナーレ Zones of Contact」(シドニー、オーストラリア)
「ARS 06 Sense of the Real」 KIASMA フィンランド国立現代美術館（ヘルシンキ、フィンランド）
- 2007 「Geopolitics of the Animation」
Centro Andaluz de Arte Contemporáneo (CACCC)（セビーリャ、スペイン）
第 52 回ヴェネツィア・ビエンナーレ（イタリア館）（ヴェネツィア、イタリア）
「Out of the Ordinary: New Video from Japan」
ロサンジェルス現代美術館（カリフォルニア、アメリカ）（5 月 9 日）
- 2007-08 「GOTH」 横浜美術館（神奈川）
- 2008 「モバイルアート」（香港）＊2009 東京、ニューヨークに巡回
「MANGA」 ルイジアナ美術館（コペンハーゲン、デンマーク）
- 2010 「Philagrafika 2010:THE GRAPHIC UNCONSCIOUS」(フィラデルフィア、アメリカ)
- 2011 「第 54 回ヴェネチアビエンナーレ」 日本館（ヴェネチア、イタリア）
- 2012 「THE BEAUTY OF THE MOMENT」 リートベルク美術館（チューリッヒ、スイス）
「The Collectors Show: Chimera」 シンガポール美術館（プラスハザーロード、シンガポール）
- 2016 「Jitto」 ANNE MOSSERI-MARLIO GALERIE（バーゼル、スイス）
- 2019 「シュルレアリスムと絵画 ーダリ、エルンストと日本のシュール」 ポーラ美術館（箱根、神奈川）
「Meet the Collection」 横浜美術館（横浜）
- 2022 「RENOIR, MONET, GAUGUIN ~Images of a Floating World」 フォルクヴァング美術館（ドイツ）

主なパブリック・コレクション

国立国際美術館（大阪）
兵庫県立美術館（兵庫）
原美術館（東京・群馬）
国際交流基金（東京）
高松市美術館（香川）
ストックホルム現代美術館（ストックホルム、スウェーデン）
ゴヴェット ブリュースター アート ギャラリー（ニュープリムス、ニュージーランド）
MUSAC カスティーリャ イ レオン現代美術館（レオン、スペイン）
イスラエル美術館（エルサレム、イスラエル）
カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
バーミンガム美術館（アラバマ、アメリカ）

フォートワース現代美術館（テキサス、アメリカ）
 ロサンゼルス現代美術館（カリフォルニア、アメリカ）
 ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
 他

その他の活動

- 2003 〔表紙絵連載〕『群像』講談社（1月号-12月号）
 〔コラム〕《潮音風声》連載、『読売新聞』（夕刊文化面）、読売新聞大阪本社（1月-10月）
- 2005 〔装丁・挿画・ブックデザイン〕グリム兄弟著、
 矢崎源九郎訳『カエルの王さま または鉄のハインリッヒ』新風舎／ワコールアートセンター
- 2006 〔アニメーション映画〕アニメーション映画誕生100年記念
 オムニバス・アニメーション『Tokyo Loop』参加（「公衆女」）製作・配給：イメージフォーラム
 〔舞台美術〕Batsheva Dance Company「FURO」、
 Judiska Teatern（ストックホルム、スウェーデン）
 〔挿画〕新聞連載小説『悪人』吉田修一著、朝日新聞社（3月24日-2007年1月29日）
 〔コラム〕《アート様様》連載、『Domani』、小学館（4月号-12月号）
- 2007 〔装画〕春日武彦、『無意味なもの和不気味なもの』文藝春秋
- 2007-08 〔コラム連載〕『をちこち散歩』国際交流基金
- 2008 〔コラム連載〕『随想』、神戸新聞、（2008年9月-12月）
- 2009 〔装画〕戌井昭人、『まずいスープ』新潮社
- 2012 〔装画〕ヒカシュー、アルバム『うらごえ』ジャケット
 〔ピアノリサイタル〕「Roje x Tabaimo」、浜離宮朝日ホール（東京）＊2018年に再演
- 2013 〔舞台〕「錆からでた実」（第一弾）青山円形劇場（東京）
 〔舞台へのアニメーション参画〕人形浄瑠璃、杉本文楽「曾根崎心中」ヨーロッパ公演
- 2014 〔舞台〕「錆からでた実」（第二弾）春秋座（京都）
- 2016 〔舞台構成・演出〕映像芝居「錆からでた実」、東京芸術劇場（東京）
- 2020 〔舞台構成・演出〕映像芝居「錆からでた実」、
 アメリカツアー（ロサンゼルス、ウェズリアン、ワシントンDC、ニューヨーク）
- 2022 〔日仏共同制作舞台作品〕「もつれる水滴」日本ツアー（富山、東京、山口、沖縄）
 フランスツアー（エルブフ、ラ・クルヌーブ、アラス、コニャック）

束芋ドキュメンタリー映像

- 2001 作品集『初芋：束芋1999-2000』Ufer! Art Documentary、27分 | 日／英字幕 | DVD | VHS
- 2003 インタビュー・作品集『oimo tabaimo-2003-』Ufer! Art Documentary、
 34+37分 | 日／英・仏字幕 | DVD | VHS

- 2008 インタビュー・作品集『imo-la -2007-』 Ufer! Art Documentary、
51+64 分 | 日／英・仏字幕 | DVD
- 2010 インタビュー・作品集『芋蟲』 Ufer! Art Documentary、47 分 | 日／英字幕 | DVD
- 2011 インタビュー・作品集『veni-imo』、Ufer! Art Documentary、26 分 | 日／英字幕 | DVD

以上

天明屋 尚

関連 URL ・ SNS 情報

Facebook: <https://www.facebook.com/TenmyouyaHisashi>

Instagram: [@tenmyouya](https://www.instagram.com/tenmyouya)

1966 年、東京都に生まれる。レコード会社のアートディレクターなどを経て、現代美術家としての活動を開始。「ネオ日本画」を標榜し、日本の伝統絵画を現代に転生させる独自の絵画表現を追求する。侘び・寂び・禅の対極にあり、華美(過美)で覇格(破格)な美の系譜を「BASARA」と総称し、書籍の刊行とともに自らキュレーションを手がけた展覧会を 2010 年に開催。2020 年、従来の発想にとらわれない美術と社会の新しい関係性を考える運動体／事業体として、「現代美術庵」を設立。

略歴 <http://tenmyouya.com/>

1966 東京都生まれ

主な個展・二人展

- 2000 「Japanese Spirit」 HARAJUKU GALLERY (東京)
- 2001 「天明屋尚展」 PROGETTO (東京)
- 2002 「ネオ日本画」 depot (東京)
- 「天明屋尚と暁斎展」 河鍋暁斎記念美術館 (埼玉)
- 2003 「画強」 ナディフ (東京)
- 「傾く(かぶく)」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 「TENMYOUYA HISASHI」 the reed space (ニューヨーク、アメリカ)
- 2004 「魑魅魍魎」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2005 「分身」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2006 「MADE IN JAPAN」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2007 「NEO Japanese Paintings」 六本木ヒルズ アート & デザインストア スペース A+D (東京)
- 2008 「闘魂」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2009 「風流」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2011 「G-tokyo 2011」 森アーツセンターギャラリー (東京)
- 2012 「韻」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2013 「下絵と版画」 TENGAI GALLERY (東京)
- 「池田学と天明屋尚展」 チェゼン美術館 (マディソン、アメリカ)
- 2014 「原画に至る道程 -画稿-」 六本木ヒルズ A/D ギャラリー (東京)
- 「韻 II」 ミヅマアートギャラリー (東京)

- 「一筆入魂」パルコミュージアム（東京）
- 2015 「天明屋尚×インディゲリラ展」ミヅマアートギャラリー（東京）
- 2017 「形質転換」ミヅマアートギャラリー（東京）
- 2018 「画強 天明屋尚 版画展」丸善・丸の内本店 ギャラリーA（東京）
- 2019 「国津神」ミヅマアートギャラリー（東京）
- 「画強 天明屋尚 版画展」大丸心斎橋店北館美術画廊（大阪）
- 2020 「天明屋尚×上田風子展」ギャラリーMUMON（東京）

主なグループ展

- 1990 「One Planet under a Groove: Hip Hop And Contemporary Art」ブロンクス美術館
（ニューヨーク、アメリカ）他巡回
- 2003 「The American Effect: Global Perspectives on the United States, 1990-2003」
ホイットニー美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 「Japan Rising」Palm Beach Institute of Contemporary Art（フロリダ、アメリカ）
- 2004 「ビックリハウス住宅展示場」パルコミュージアム（東京）
- 「Asian Invitational」 Frey Norris Gallely（サンフランシスコ、アメリカ）
- 2005 「GUNDAM 来たるべき未来のために」サントリーミュージアム（大坂）他巡回
- 2006 「MOT アニュアル NO BORDER-「日本画」から／「日本画」へ」東京都現代美術館（東京）
- 「ベルリン - 東京展」ベルリン新国立美術館（ベルリン、ドイツ）
- 2007 「武者絵の世界展」長野信濃美術館（長野）
- 2008 「Off the Rails 反主流」Mizuma & One Gallery（北京、中国）
- 「ORDER RECEIVED」ミヅマアートギャラリー（東京）
- 「ネオテニー・ジャパン - 高橋コレクション」鹿児島県霧島アートの森（鹿児島）他巡回
- 「Vision of East Asian 2008」中国国家図書館展示室（北京、中国）他巡回
- 2010 「会田誠+天明屋尚+山口晃 誠がいく、尚がいく、晃がいく - ミヅマ三人衆ジャパンを
斬る -」高橋コレクション日比谷（東京）
- 「第 17 回シドニー・ビエンナーレ」（シドニー、オーストラリア）
- 「BASARA 展」スパイラルガーデン（東京）
- 「ジャラパゴス展」明治神宮外苑前中央会場（東京）
- 「Sugipop Showcases Cutting Edge Japanese and American Contemporary Art」
ポーツマス美術館（ニューハンプシャー、アメリカ）
- 2011 「Bye bye Kitty!!!」ジャパン・ソサエティ（ニューヨーク、アメリカ）
- 「ZIPANG」日本橋高島屋（東京）他巡回
- 「タグチ・アートコレクション GLOBAL NEW ART」損保ジャパン東郷青児美術館（東京）
- 2012 「ジパング展」新潟万代島美術館（新潟）他巡回
- 「Look East! Japanese Contemporary Art」ミヅマギャラリー（ギルマンバラックス、シンガポール）
- 2014 「サッカー展、イメージのゆくえ」うらわ美術館（埼玉）

- 「Impacts! 勢み Japan Art Festival」 ZANE BENNETT Contemporary Art (サンタフェ、アメリカ)
「異形の楽園：池田学・天明屋尚&チームラボ」 ジャパン・ソサエティ (ニューヨーク、アメリカ)
「天明屋尚×インディゲリラ キュレーション展」
ミヅマガギャラリー (ギルマンバラックス、シンガポール)
- 2015 「HEY! Modern Art & Pop Culture / ActIII」 アールサンピエール美術館 (パリ、フランス)
- 2016 「郷愁と未来の輝き－クレパス画名作展」 姫路市立美術館 (兵庫)
「TENGA! 3.0 展」 hpgrp GALLERY NY (ニューヨーク、アメリカ)
- 2017 「COOL JAPAN - Worldwide Fascination in Focus」 民族学博物館 (ライデン、オランダ) 他巡回
「現代アート、始めます。草間彌生からさわきまで」 尾道市立美術館 (広島)
- 2018 「巨匠たちのクレパス画展-日本近代から現代まで-」
東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館 (東京)
- 2019 「岡本太郎と日本の伝統展」 川崎市立岡本太郎美術館 (神奈川)
「SERPENTI form」 成都市博物館 (成都、中国)
「In-Between Land」 Mizuma, Kips & Wada Art (ニューヨーク、アメリカ)
- 2020 「百年の杜のアート『紫幹翠葉』」 明治神宮ミュージアム (東京)
「SAMURAI 展」 南オーストラリア州立美術館 (アデレード、オーストラリア)
「POP Infinity」 K11 MUSEA (香港、中国)

主な受賞歴

- 1990 日本グラフィック展審査員賞
2001 リキテックス・ビエンナーレ奨励賞
2003 岡本太郎記念現代芸術大賞優秀賞

以上

橋本 雅也

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://masayahashimoto.com/>

1978 年岐阜県生まれ。橋本の創作活動の原点は、2000 年にインドの山村を旅した経験にさかのぼり、河原で木片を拾い磨いた際、手を加えることで自然物が内包していたものが表出してくる現象に興味を抱いたことにはじまる。代表作の鹿の角や骨を素材に、草花をモチーフとした作品は、国内外で注目を集めている。近年は土や木など様々な素材を扱い、生命の諸相に触れる作品を多く残している。

略歴

1978 岐阜県生まれ

独学で彫刻を学ぶ

主な個展・二人展

- 2011 「殻のない種から」主水書房（大阪）
- 2012 「殻のない種」ロンドンギャラリー（東京）
「風の回廊」横浜市民ギャラリーあざみ野（神奈川）
- 2014 「間（あわい）なるもの」金沢 21 世紀美術館（石川）
「一草一木」ロンドンギャラリー（東京）
- 2017 「片影」私立大室美術館（三重）
- 2019 「間なるもの－霧のあと－」ロンドンギャラリー（東京）
- 2022 「間なるもの」ロンドンギャラリー（東京）

主なグループ展

- 2010 「Immemorial Foreseeing」Fellini Gallery（上海、中国）
- 2012 「古代礼賛、中世礼賛」正木美術館（大阪）
- 2013 「Taiwan・Japan-Contemporary Craft and Design/Craft in Flux, 2nd International Triennale of Kougei in Kanazawa Exchange Exhibition in Taiwan」
国立台湾工芸研究所（南投県、台湾）
「メメントモリ：愛と死を見つめて」ロンドンギャラリー（東京）
「第 2 回金沢・世界工芸トリエンナーレ」金沢 21 世紀美術館（石川）
- 2015 「高橋コレクション展－Mirror Neuron」東京オペラシティ（東京）
「Surface Tension」White Rainbow（ロンドン、英国）

- 2016 「生きとし生けるもの」 ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
- 2017 「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.06／物語る物質」 高松市美術館（香川）
「驚異の超絶技巧！明治工芸から現代アートへ」 三井記念美術館（東京）
- 2018 「5rooms 気配の純度」 神奈川県民ホールギャラリー（神奈川）
- 2020 「EQUILIBRIUM」 Bermel von Luxburg Gallery（ベルリン、ドイツ）
- 2022 「リアルのゆくえ」 平塚市美術館（神奈川）

以上

畠山 耕治

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://scottish-gallery.co.uk/artists/koji-hatakeyama/>
<https://ehc.art/>

1956 年、富山県に生まれる。鋳物の一大産地として 400 年以上もの歴史がある富山県高岡市に、1985 年、工房を設立。青銅を素材とした鋳金による作品を制作し、「青銅の存在そのものを鋳込む」という哲学を、抑制の効いた造形と臨場感のある表情に表わし、国内外から高い注目を集める。ヴィクトリア&アルバート美術館、フィラデルフィア美術館、パリ装飾美術館、東京国立近代美術館ほか、国内外の数多くの美術館に作品が収蔵されている。工芸の範疇にとどまらず、ホテルやレストラン、ビルのインテリアなど、建築やモニュメントの分野でもコミッションワークを数多く手がける。

略歴

1956 富山県生まれ
1980 金沢美術工芸大学工芸科鋳金専攻卒業
2017-2022 金沢美術工芸大学教授

主な個展

1989 松屋銀座（東京）＊1991 年にも開催
1990 マロニエギャラリー（京都）
1991 ギャラリーNOW（富山）＊1995 年、2000 年、02 年、04 年、07 年にも開催
1992 三春堂ギャラリー/ 東京 ＊1993 年、95 年、98 年、2000 年にも開催
1998 ギャルリ・プス（東京）
リビングデザインセンターOZONE（東京）
1999 ギャラリーなあふ（岐阜）
ギャラリーにしかわ（京都）＊2001、03、05、07、09、11 年にも開催
2000 ギャラリープランネット（愛知）
2001 菜の花（神奈川）＊2005 年にも開催
アートサロン光玄（愛知）＊2003 年、06 年にも開催
ギャルリ・プチボワ（大阪）＊2004、09、12 年にも開催
2002 寛土里（東京）＊2004 年、06 年、08 年にも開催
エキジビション・スペース（東京）＊2010、13 年にも開催
2003 ギャラリー佐野（静岡）
2004 清課堂ギャラリー（京都）

- 2005 高島屋美術画廊（東京・京都・大阪）
- 2006 ギャラリー介（東京）
- 2007 石川画廊（東京）
 ギャラリートータク（愛知）＊2012 年にも開催
 壺中居（東京）＊2009、12 年にも開催
- 2008 ギャラリー蒼（宮城）
 明日（愛媛）
 日本橋高島屋美術画廊 X（東京）＊2013、16、20 年にも開催
- 2009 The Scottish Gallery（エジンバラ、英国）＊2011、14、18 年にも開催
- 2011 思文閣（京都）＊2013、15 年にも開催
- 2012 銀座一穂堂（東京）
- 2013 アートフロントギャラリー（東京）
- 2015 Erskine, Hall & Coe（ロンドン、英国）
- 2016 Lesley Kehoe Galleries（メルボルン、オーストラリア）
- 2017 阿曾美術（東京）
- 2022 「畠山耕治―青銅を鑄る」 菊池寛実記念 智美術館（東京）

主なグループ展

- 1995 「Tradition and Avant-Garde, Japanese Studio Crafts」
 ヴィクトリア&アルバート美術館（ロンドン、英国）
 「Guests of Japan」 ハンブルク装飾美術館（ハンブルク、ドイツ）
- 1998 「Contemporary Japanese Crafts」 デンマーク国立博物館（コペンハーゲン、デンマーク）
- 2002 「Hands On」 フィラデルフィア美術館（フィラデルフィア、アメリカ）
- 2003 「工芸の現在―アメリカ、ヨーロッパ、アジアの 21 人」 金沢 21 世紀美術館（石川）
 「Twist in Japan」 ナンシー市立美術館（ナンシー、フランス）
- 2009 「Raising the Bar-Influential Voices in Metal」 ミドルズブラ近代美術館（ミドルズブラ、英国）
- 2012 「日本近現代工芸の精華」 ピッティ宮殿美術館（フィレンツェ、イタリア）
 「現代の座標―工芸をめぐる 11 の思考」 東京国立近代美術館工芸館（東京）
- 2016 「革新の工芸―伝統と前衛 そして現代」 東京国立近代美術館工芸館（東京）
- 2017 「原初の思考」 高島屋美術画廊（東京、京都、大阪、名古屋、横浜）
- 2018 「ジャポニズムの 150 年」 パリ装飾美術館（パリ、フランス）
- 2019 「明治の工芸・平成の工芸」 ギリシャ近代文化博物館（アテネ、ギリシャ）
- 2021 「What Color is Metal?」 国立デザイン&クラフツ美術館（キルケニー、アイルランド）
- 2022 「ジャンルレス工芸」 国立工芸館（石川）

主な受賞歴

2001 タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞

2007 第4回佐野ルネッサンス鍍金展大賞

2012 MOA 岡田茂吉賞 MOA 美術館賞

以上

町田 久美

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://www.nishimura-gallery.com/kumi-machida/>

1970 年、群馬県に生まれる。多摩美術大学絵画科日本画専攻を卒業。日本画の伝統的な画材を用いながら、普遍的で多義的な広がりを持つ作品を描き注目される。主なパブリックコレクションに東京都現代美術館（東京）、国立国際美術館（大阪）、ニューヨーク近代美術館（アメリカ）ほか。

略歴

1970 群馬県生まれ
1994 多摩美術大学絵画科日本画専攻卒業
現在 東京を拠点に活動

主な個展・二人展

2000 AC Witteveen Gallery（アムステルダム、オランダ）
2004 「日本画二人展 町田久美・中村ケンゴ」西村画廊（東京）
*以降、2005、06、08、10、13、14 年に個展開催
2008 Kestner Gesellschaft（ハノーバー、ドイツ）
「町田久美—日本画の線描」高崎市タワー美術館（群馬）
2011 Hå Gamle Prestegard（ホーベゲン、ノルウェー）
2015 Asia House（ロンドン、英国）
2017 Kulturhus Kappelborg（スカーゲン、デンマーク）
2022 「町田久美作品展—1 本の線」小松市立本陣記念美術館（石川）

主なグループ展

2006 「MOT アニュアル No Border—『日本画』から／『日本画』へ」東京都現代美術館（東京）
2008 「MANGA! Japanske billeder」Louisiana Museum of Modern Art（コペンハーゲン、デンマーク）
2010 「絵画の庭—ゼロ年代日本の地平から」国立国際美術館（大阪）
2011 「BYE BYE KITTY!!! Between Heaven and Hell in Contemporary Japanese Art」
Japan Society（ニューヨーク、アメリカ）
2012 「アジアをつなぐ—境界を生きる女たち 1984-2012」福岡アジア美術館（福岡）ほか巡回
2015 「Surface Tension」White Rainbow（ロンドン、英国）
「Cosmos/Intime」パリ日本文化会館（パリ、フランス）

- 2016 「PRO(S)THESIS」 Academy of Fine Arts Vienna (ウィーン、オーストリア)
「Japanorama. A new vision on art since 1970」
ポンピドゥー・センター・メス (ロレーヌ、フランス)
- 2020 「They Do Not Understand Each Other」 Tai Kwun Contemporary (香港、中国)
- 2021 「TOKYO: ART & PHOTOGRAPHY」
Ashmolean Museum of Art and Archaeology (オックスフォード、英国)
「FIGURE/S: drawing after Bellmer」 Drawing Room (ロンドン、英国)

主な受賞歴

- 2007 ソヴリン・アジア・アート・プライズ 2007 (香港)
- 2014 第 24 回タカシマヤ美術賞

以上

松井 えり菜

関連 URL・SNS 情報

Web: <http://erinamatsui.com/>

Instagram: [@erina_matsui](https://www.instagram.com/erina_matsui)

Twitter: [@upaerina](https://twitter.com/upaerina)

1984 年、岡山県生まれ。東京都在住。

強烈なインパクトを与える個性的な自画像で知られる。松井にとって宇宙まで広がっていく彼女の自画像表現は、鑑賞者とある種の感覚を共有するようなコミュニケーションツールである。

2004 年「GEISAI#6」の金賞を受賞し、受賞作《エビチリ大好き》が、カルティエ現代美術財団に収蔵され、同財団でのグループ展で国際デビュー。2006 年フィンランドへの留学を経て、2008 年多摩美術大学を卒業、2010 年に東京藝術大学大学院修了。2012 年から 1 年間、ベルリンの国際的に知られるアーティスト・レジデンス「クンストラーハウス・ベタニエン」に滞在。

近年の主な展覧会に「素材とあそぶー令和 3 年度新収蔵作品を中心にー」（高松市美術館、2023）、「画家のお宅」（豊島区立熊谷守一美術館、2022）、「令和おとぎ草子 桃太郎 KAMISHI by 松井えり菜」（岡山県立美術館、2020）、「顔の惑星」（鹿児島県霧島アートの森、2016）、「高橋コレクション マインドフルネス！2016」（高知県立美術館、2016）など。

略歴

- | | |
|------|---|
| 1984 | 岡山県生まれ |
| 2006 | ヘルシンキ芸術デザイン大学短期留学 |
| 2008 | 多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業 |
| 2010 | 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了 |
| 2012 | 文化庁新進芸術家海外派遣制度により渡独 ベルリン（クンストラーハウス・ベタニエン）滞在 |

主な個展

- | | |
|------|---|
| 2007 | 「わたしの小宇宙（コスモ）」山本現代（東京）
「Cycle: Kawaii! Japan today」ジョアン・ミロ財団（バルセロナ、スペイン） |
| 2010 | 「ワンタッチ・タイムマシーン！」山本現代（東京） |
| 2012 | 「サンライズえり菜〜大原美術館をおもちゃ箱〜」大原美術館（岡山）
「わびさびウートピア」山本現代（東京） |
| 2013 | 「Road Sweet Road」クンストラーハウス・ベタニエン（ベルリン、ドイツ） |
| 2015 | 「マンガ脳夜曲（マンガノウセレナーデ）〜絵画の続き〜」山本現代（東京） |
| 2016 | 「顔の惑星」鹿児島県霧島アートの森（鹿児島） |

- 2020 「令和おとぎ草子 KAMISHI By 松井えり菜」岡山県立美術館（岡山）
 2021 「アトリエ ドゥ マツイ エリナ」GINZASIX 蔦屋書店（東京）

主なグループ展

- 2005 「J'en rêve」カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
 2006 「カルティエ現代美術財団コレクション展」東京都現代美術館（東京）
 2007 「Drive You Insane」山本現代（東京）
 2008 「DREAM of the SKULL」山本現代（東京）
 2009 「The Simple Art of Parody」台北当代美術館（台北、台湾）
 「共鳴する美術 2009 ―表現への挑戦―」倉敷市立美術館（岡山）
 「第3回モスクワビエンナーレ」（モスクワ、ロシア）
 「ノーマンズランド」在日フランス大使館旧庁舎（東京）
 2010 「Self Portrait ―私という他人」高橋コレクション日比谷（東京）
 2011 「JAPANCONGO」Le Magasin Centre National d'Art Contemporain（グルノーブル、フランス）
 2013 「Ohara Contemporary」大原美術館（岡山）
 「高橋コレクション―マインドフルネス！―鹿児島県霧島アートの森（鹿児島）ほか巡回
 2014 「Haver fet un lloc on els artistes tinguin dret a equivocar-se. Històries de」
 Fundació Joan Miró（バルセロナ、スペイン）
 「日本・台湾現代美術の現在と未来」東京藝術大学美術館（東京）
 2015 「高橋コレクション展 ミラー・ニューロン」東京オペラシティ アートギャラリー（東京）
 2016 「Domani 明日展」国立新美術館（東京）
 2020 「Our stories」Spiral garden（東京）
 「池袋モンパルナス 2.0」ターナーギャラリー（東京）
 2021 「山彦と水面鏡」ターナーギャラリー（東京）
 「六甲ミーツアート芸術散歩 2021」（兵庫）
 「Jeonnam International SUMUK Biennale」（木浦市、韓国）
 「池袋モンパルナス 2.1～水脈を巡って～」ターナーギャラリーほか（東京）

主な受賞歴

- 2004 GEISAI#6 金賞
 2006 JASSO 優秀学生顕彰事業 大賞
 2008 福沢一郎賞
 2010 岡山県新進美術家育成「I 氏賞」 大賞

以上

見附 正康

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.otafinearts.com/ja/artists/32-masayasu-mitsuke/>

1975 年、石川県に生まれる。石川県立九谷焼技術研究所卒業後、福島武山のもとで修業し、九谷に伝わる赤絵の技術を習得する。2006 年に伝統工芸士に認定され、翌年工房を構え独立。伝統的な赤絵細描の高度な技術を用い、現代的な文様を描出した作品が注目され、数々の賞を受賞。金沢 21 世紀美術館、兵庫陶芸美術館、国立工芸館などに作品が収蔵されている。古典的な九谷赤絵を新たなステージに押し上げた作家として知られる。

略歴

1975 石川県生まれ
 1997 石川県立九谷焼技術研究所卒業
 九谷焼作家、福島武山氏に師事
 現在 石川県加賀市を拠点に活動

主な個展

2007 オオタファインアーツ（東京）＊2009 年、16 年、22 年も開催
 2017 しぶや黒田陶苑（東京）＊2021 年も開催

主なグループ展

2010 「第 1 回金沢世界工芸トリエンナーレ」 金沢 21 世紀美術館（石川）
 2011 「REVALE NIPPON PROJECT－中田英寿、現代陶芸と出会う－」 茨城陶芸美術館（茨城）
 2012 「工芸未来派」金沢 21 世紀美術館（石川）
 2015 日本・スイス国交樹立 150 周年記念「LOGICAL EMOTION－日本現代美術展」
 Museum Haus Konstruktiv（チューリヒ、スイス）ほか巡回
 「japanese kougei/future forward」The Museum of Arts and Design（ニューヨーク、アメリカ）
 2016 「REVALUE NIPPON PROJECT」パナソニック 汐留ミュージアム（東京）
 2017 「工芸未来派：工芸ブリッジ」EYE OF GYRE（東京）
 2018 「やきものを分析する－装飾編－」兵庫陶芸美術館（兵庫）
 2019 「形山コレクション 茶碗－掌の銀河－」岡山県立美術館（岡山）
 2020 「無形にふれる」銀座ポーラミュージアムアネックス（東京）
 「和巧絶佳展 令和時代の超工芸」パナソニック汐留美術館（東京）ほか巡回

- 2021 「No Man's Land－陶芸の未来、未だ見ぬ地平の先－」兵庫陶芸美術館（兵庫）
- 2022 「未来へつなぐ陶芸－伝統工芸のチカラ展」国立工芸館（石川）ほか巡回
「ジャンルレス工芸展」国立工芸館（石川）

主な受賞歴

- 2014 第9回パラミタ陶芸大賞展 大賞
- 2016 石川デザイン賞
- 2019 第39回伝統文化ポーラ賞 奨励賞

以上

森村 泰昌

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://www.morimura-ya.com/>

<https://www.morimura-at-museum.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/morimura.yasumasa>

Instagram: [@yasumasamorimura](#)

Twitter: [@ymorimura](#)

1951 年大阪府生まれ。学生時代は三島由紀夫やフロイトの「夢判断」に親しむ。大学在学中に「すっかりダメな僕たち展」という自主企画展を知り影響を受ける。1985 年の「ラディカルな意志のスマイル」展において初めて大型カメラによるセルフポートレート作品を発表。以降、美術史上の絵画、写真作品を引用し、画家自身が登場人物に扮する写真の制作は作家のトレードマークとなる。森村の特質としては、自らが絵画／写真の登場人物に擬態すると同時に、森村自身という主体を過剰なまでに露出する点、そして同時にそれぞれの作品に登場する森村に同一性はない点、が指摘されている。これは即ち、イメージの歴史に自身の身体を経由させることでそのイメージが含む意味を解釈しながらも、逆説的にアイデンティティの脱構築を図る行為と言える。

略歴

- 1951 大阪府生まれ
- 1971 京都市立芸術大学美術学部デザインコースに入学
- 1975 京都市立芸術大学美術学部デザインコース卒業
- 1976 京都市立芸術大学美術専攻科デザイン専攻に入学
- 1985 ゴッホの自画像に扮する自身のセルフポートレート写真《肖像・ゴッホ》でデビュー
- 1989 ヴェネツィアビエンナーレ/アペルト 88 に選出される
- 2002 東川賞国内作家賞
- 2007 芸術選奨文部科学大臣賞
- 2011 紫綬褒章、毎日芸術賞
- 2014 ヨコハマトリエンナーレ 2014 芸術監督
- 2018 大阪に自身の美術館 M@M (モリムラ@ミュージアム)をオープン

主な個展・二人展

- 1983 「森村泰昌作品展ーシルクスクリーンによるー」ギャラリー・マロニエ（京都）
- 1984 「森村泰昌展」平松画廊（大阪）
- 1986 「董色のモナムール、其の他」ギャラリー白（大阪）

- 1988 「マタに、手」ギャラリーNW ハウス（東京）他
- 1989 「批評とその愛人」モーリーギャラリー（大阪）
- 1990 「Yasumasa Mrimura」ニコラ・ジェイコブズ・ギャラリー（ロンドン、英国）
「美術史の娘」佐賀町エキジビット・スペース（東京）
- 1991 「Yasumasa Morimura」Luhrling Augustine（ニューヨーク、アメリカ）
- 1992 「プロローグ はりめぐらされた美の病」西田画廊（奈良）
「森村泰昌ポスター展」西田画廊（奈良）
「森村泰昌スカルプチャーズ」佐谷周吾美術室（東京）
「Yasumasa Morimura」カーネギー美術館（ピッツバーグ、アメリカ）
「OPTIONS44:Yasumasa Morimura」シカゴ現代美術館（シカゴ、アメリカ）
- 1993 「9 visage」カルティエ財団現代美術館（パリ、フランス）
「美に至る病 其の一〜五」西田画廊（奈良）
- 1994 「森村泰昌展 レンブラントの部屋」原美術館（東京）
「サイコボーグ マドンナ・マイケル・モリムラの関係」ザ・ギンザ・アートスペース（東京）
- 1995 「モノ・カオ・反物語 第2部:カオ Part3」東京都写真美術館（東京）
- 1996 「ヴァン・ゴッホからマリリンまで」佐谷画廊（東京）
「森村泰昌展－女優シリーズより－」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
「森村泰昌 美に至る病－女優になった私」横浜美術館（横浜）
- 1997 「Yasumasa Morimura: Actor /Actresses」ヒューストン現代美術館（ヒューストン、アメリカ）
- 1998 「森村泰昌[空装美術館]－絵画になった私」東京都現代美術館（東京）他
- 1999 「The Time with No Name,The Self with No Name」Chulalongkorn University（バンコク、タイ）
- 2001 「森村泰昌写真展－セルフポートレート、そして風景－」graf（大阪）
「私の中のフリーダ／森村泰昌のセルフポートレート」原美術館（東京）
- 2002 「ざわめきとさざめきの写真展」Bunkamura ギャラリー（東京）
「女優 M の物語～M 式ジオラマ（25m）付き～」川崎市民ミュージアム（神奈川）
- 2004 「フェルメール研究－大きな物語は小さな部屋の片隅に現れる」同志社女子大学（京都）
- 2007 「荒ぶる神々の黄昏／なにものかへのレクイエム・其の弐」シュウゴアーツ（東京）
「森村泰昌:美の教室、静聴せよ」熊本市現代美術館（熊本）他
- 2008 「Requiem for the 20th century:Twilight of the Turbulent Gods:Photographies de Yasumasa Morimura Galerie Thaddaeus Ropac（パリ、フランス）
- 2010 「なにものかへのレクイエム－戦場の頂上の芸術」東京都写真美術館（東京）他
「森村泰昌モリエナーレ まねぶ美術史」高松市美術館（香川）他
- 2012 「森村泰昌展『美術史としての私[抄]』札幌宮の森美術館（北海道）
- 2014 「Yasumasa Morimura:Las Meninas renacen de noche」Luhrling Augustine（ニューヨーク、アメリカ）
- 2016 「森村泰昌:自画像の美術史－『私』と『わたし』が出会うとき」国立国際美術館（大阪）
- 2017 「Yasumasa Morimura. The history of the self-portrait」プーシキン美術館（モスクワ、ロシア）

- 2018 「君は『董色のモナムール、其の他』を見たか？—森村泰昌のもうひとつの1980年代—」
M@M（大阪）
「「私」の年代記」1985～2018」シュウゴアーツ（東京）
「YASUMASA MORIMURA: EGO OBSCURA」Japan Society（ニューヨーク、アメリカ）
- 2019 「Mの肖像」作品を解く鍵はエムだ 第1期」M@M（大阪）
- 2020 「北加賀屋の美術館によってマスクをつけられたモナリザ、さえも」M@M（大阪）
「森村泰昌のあそぶ美術史～ほんきであそぶとせいかいはかわる」富山県美術館（富山）
「森村泰昌：エゴオブスクラ東京2020—さまよえるニッポンの私」原美術館（東京）
「「Mの肖像」作品を解く鍵はエムだ 第2期」M@M（大阪）
- 2021 「森村泰昌 二重拘束の美学」M@M（大阪）
「M式「海の幸」—森村泰昌 ワタシガタリの神話」アーティゾン美術館（東京）
- 2022 「森村泰昌：ワタシの迷宮劇場」京都市京セラ美術館 東山キューブ（京都）
「華氏451の芸術・再考」M@M（大阪）
- 2022-23 「顔」—KAO」M@M（大阪）

主なグループ展

- 1984 「『オレ達は寡黙じゃない、わかりますか』写真です、写真。」ギャラリー・ビュウ（大阪）
- 1985 「ラディカルな意志のスマイル」ギャラリー16（京都）
- 1987 「現代美術における身体性」天野画廊（大阪）
- 1988 「現代美術作家立体小品展—壁II」ギャラリーマロニエ（京都）
- 1989 「80年代のトランスアート装置」フクニシファインアート（愛媛）
「日豪交換現代美術展」埼玉県立近代美術館（埼玉）
- 1990 「脱走する写真—11の新しい表現—」水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）
「日本のコンテンポラリー—写真をめぐる12の指標」東京都写真美術館（東京）
「観念の刻印—1990年日本の版画・写真・立体」栃木県立美術館（栃木）
- 1991 「からだのイメージ—西洋と日本の人体表現—近世から現代へ」静岡県立美術館（静岡）
「方法としての写真展 パート2」西田画廊（奈良）
- 1992 「開館10周年記念展『アダムとイヴ』」埼玉県立近代美術館（埼玉）
- 1994 「人間の条件 私たちは、どこへ向かうのか。」スパイラルガーデン（東京）他
「開館10周年記念 時間／美術:20世紀美術における時間の表現」滋賀県立近代美術館（滋賀）
「時間・空間・記憶—Photography and Beyond in Japan」原美術館（東京）他
- 1995 「時に立てる爪＝戦争と美術＝」現代美術資料センター（東京）
「Art in Japan 日本の現代美術1985-1995」東京都現代美術館（東京）他
- 1996 「もうひとつの写真 写真的なるものをめぐって」東京都写真美術館（東京）
「女性の肖像 日本の現代美術の顔」渋谷区松濤美術館（東京）
- 1997 「マリリン・モンローとエルヴィス・プレスリー 象徴から神話へ～アメリカン・ポップ・カルチャーの聖像」北海道立帯広美術館（北海道）他

- 1998 「森村泰昌プロデュース『テクノセラピーーこころとからだの美術浴ー』中之島中央公会堂（大阪）
「エレクトロニカリー・ユアーズ 電子時代の新たなる肖像」東京都写真美術館（東京）
- 1999 「身体の夢 ファッション OR 見えないコルセット」京都国立近代美術館（京都）他
「関西の戦後美術 1950's-1990's」和歌山県立近代美術館（和歌山）
- 2000 「空き地」豊田市美術館（愛知）
「モナ・リザ100の微笑展 ダ・ヴィンチの手を離れたモナ・リザたちー模写から創造へ」
東京都現代美術館（東京）他
- 2001 「Stay with art～眺めの良い部屋～」HOTEL T'POINT（大阪）
- 2001 「あるコレクターが見た戦後日本美術」群馬県立近代美術館（群馬）
- 2002 「未完の世紀ー20世紀美術がのこすもの」東京国立近代美術館（東京）
- 2004 「再考:近代日本の絵画 美意識の形成と展開」東京都現代美術館（東京）
「私あるいは私[静かなる燃焼系]」ボーダレス・アートギャラリーNO-MA（滋賀）
「マルセル・デュシャンと20世紀美術」国立国際美術館(大阪)
- 2007 「シュルレアリスムと美術ーイメージとリアリティをめぐって」宇都宮美術館（栃木）他
- 2008 「アジアとヨーロッパの肖像」国立民族学博物館(大阪) 他
「液晶絵画 Still/Motion」三重県立美術館（三重）他
- 2009 「梅原猛と10人のアーティスト」日本橋高島屋（東京）他
「愛についての100の物語」金沢21世紀美術館（石川）
- 2010 「Self Portraitー私という他人」高橋コレクション日比谷（東京）
「六本木クロッシング2010展:芸術は可能か？ー明日に挑む日本のアートー森美術館（東京）
- 2013 「20世紀のプリントアート」北海道立帯広美術館（北海道）
- 2014 「アジア・アナキー・アライアンス」関渡美術館（台北、台湾）
- 2015 「カフカを読む、カフカを謡う、カフカを想う カフカ トリビュート Part4」parabolica-bis（東京）
「高橋コレクション展 ミラー・ニューロン」東京オペラシティアートギャラリー（東京）
「愛すべき世界」丸亀市猪熊弦一郎美術館（香川）
- 2016 「Contemporary Artists vs. the Masters: Homage, Battle, Reclamation」
Brattleboro Museum and Art Center（ブラトルボロ、アメリカ）
「Photography and Film Constructs」Ringling College of Art and Design（サラソータ、アメリカ）
- 2017 「THE ドラえもん展 TOKYO 2017」森アーツセンターギャラリー（東京）
「恵比寿映像祭 マルチプルな未来」東京都写真美術館（東京）
- 2018 「Progress -Art in an Age of Historical Ambivalence」上海ビエンナーレ（上海、中国）
「起点としての80年代」金沢21世紀美術館（石川）
「アートを発信するー原美術館発国際巡回展の軌跡」
ハラ ミュージアム アーク現代美術ギャラリー（群馬）
「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」国立国際美術館 開館40周年記念展、
国立国際美術館（大阪）
「森村泰昌、ゴッホの部屋を訪れる」京都国立近代美術館（京都）
- 2019 「未来と芸術展：AI、ロボット、都市、生命ー人は明日どう生きるのか」森美術館（東京）

- 「CONTACT つなぐ・むすぶ日本と世界のアート展」清水寺（京都）
 「MAY I START? 計良宏文の越境するヘアメイク」埼玉県立近代美術館（埼玉）
 「百年の編み手たちー流動する日本の近現代美術ー」東京都現代美術館（東京）
- 2020 「眠り展：アートと生きること ゴヤ、ルーベンスから塩田千春まで」東京国立近代美術館（東京）
 「Connectionsー海を越える憧れ、日本とフランスの150年」ポーラ美術館（神奈川）
 「佐賀町エキジビット・スペース 1983-2000ー現代美術の定点観測ー」群馬県立近代美術館（群馬）
- 2021 大林コレクション展「Self-History」WHAT MUSEUM（東京）
 「わたしはどこに立っている」シュウゴアーツ（東京）
 「Being Human - 7 Questions」サムスン美術館リウム（ソウル）
 「MOMAT コレクション 特別編 ニッポンの名作130年」東京国立近代美術館（東京）
 「フォトグラフィック・ディスタンスー不鮮明画像と連続階調にみる私と世界との距離ー」
 栃木県立美術館（栃木）
 「THE ドラえもん展 KYOTO 2020」京都市京セラ美術館（京都）
 「“CONTRAST = Light and Shadow” 大林コレクションから日本の現代写真」
 船場エクセルビル（大阪）
 「Next Worldー夢みるチカラ タグチ・アートコレクション×いわき市立美術館」
 いわき市立美術館（福島）
 「シュウゴアーツショー」シュウゴアーツ（東京）
- 2021-22 「人間浄瑠璃 森村泰昌×桐竹勘十郎 二人展「お手を拝借!!」M@M（大阪）
 「The Dream of the Museum」M+（香港）
 「悉皆（shikkai）-風の時代の継承者たち-」高島屋 美術画廊（日本橋、大阪、京都、横浜、新宿）
 「虹をかける：原美術館／原六郎コレクション」原美術館 ARC（群馬）
- 2022 「日本の中のマネー ー出会い、120年のイメージー」練馬区立美術館（東京）
 「装いの力ー異性装の日本史」渋谷区立松濤美術館（東京）
 常設特別展「サンセット／サンライズ」豊田市美術館（愛知）
 「オルタナティブ！ 小池一子展 アートとデザインのやわらかな運動」
 アーツ千代田 3331 メインギャラリー、sagacho archives、B111ほか（東京）
- 2022-23 「Fanatic Heart」Para Site（香港）

以上

村山 悟郎

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://goromurayama.com/>

Instagram: [@goromurayama](https://www.instagram.com/goromurayama)

1983 年、東京生まれ。アーティスト。博士(美術)。自己組織的なプロセスやパターンを、絵画やドローイングをとおして表現している。2015 年、東京藝術大学美術研究科博士後期課程美術専攻油画(壁画)研究領域修了。2015-17 年、文化庁新進芸術家海外研修員としてウィーンにて滞在制作（ウィーン大学哲学科 間文化哲学研究室客員研究員）。近年の主な展覧会に、「瀬戸内国際芸術祭 2022」（2022 年、男木島浜口邸、香川）、「ICC アニュアル 2022 生命的なものたち」（2022 年、NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]、東京）、「村山悟郎 | Painting Folding」（2020 年、Takuro Someya Contemporary Art、東京）、「21st Domani 明日展」国立新美術館（2019）、「瀬戸内国際芸術祭 2019」男木島浜口邸、香川（2019）、「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」愛知（2019）、「The museum of plasticnation」AISHONANZUKA、香港（2018）、「Emergence of Order」大和日英ジャパンハウス、ロンドン（2018）など。

略歴

1983	東京生まれ
2009	東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
2012	東京藝術大学美術研究科絵画専攻修了（壁画第一研究室）
2015	東京藝術大学美術研究科博士後期課程美術専攻油画（壁画）研究領域修了

主な個展・二人展

2010	第 4 回シセイドウアートエッグ「絵画的主体の再魔術化」資生堂ギャラリー（東京）
2011	「成層圏 vol.6 私のゆくえ 村山悟郎」キュレーター：田中正之 ギャラリー aM（東京）
2013	「the Coupling of second-order」HAGISO（東京）
2015	「監獄のファンタジー」小金井アートスポット シャトー2F（東京） 「resolutional perspective」ギャラリーBlanka（名古屋）HIGURE 17-15 cas（東京）
2016	「シミュレーションナル・ポイエーシス」Spektakel（ウィーン、ドイツ）
2017	「座って見るために、画像を解除する」G/P Gallery（東京）
2018	「Emergence of Order」大和日英ジャパンハウス（ロンドン、イギリス） 「The museum of plastic nation」AISHONANZUKA（香港）
2020	「Painting Folding 個展」Takuro Someya Contemporary Art（東京）
2021	「多の絵画」THE POOL（広島）
2022	「Generative Islander」建築工房おおやま（香川県直島町）

主なグループ展

- 2009 「MOT コレクション・MOT で見る夢」 東京都現代美術館（東京）
- 2011 「TRANS COMPLEX - 情報技術時代の絵画」 京都芸術センター（京都）、
AISHO MIURA ARTS（東京）
- 2012 「アートアワードトーキョー丸の内 2012」 行幸地下ギャラリー（東京）
- 2013 「VOCA 展 2013 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」 上野の森美術館（東京）
- 2014 「Identity X -fusion of memory ~ memory for the future-」 nichido contemporary art（東京）
- 2016 「PARALLEL」 Alte Post（ウィーン、オーストリア）
- 2017 「MUSAO- Museum astray Ottakring」 MASC FOUNDATION（ウィーン、オーストリア）
- 2018 「NEWS 2018 _東京藝術大学油画新任教員展」 Yuga Gallery（東京）
- 2019 「21st Domani 明日展」 国立新美術館（東京）
「瀬戸内国際芸術祭 2019」 男木島浜口邸（高松）
「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」（愛知）
- 2020 「余白/Marginaria」 キュレーション：布施琳太郎 snow contemporary（東京）
- 2021 「- INSIDE THE COLLECTOR'S VAULT, VOL.1 - 解き放たれたコレクション展」
WHAT MUSEUM（東京）
- 2022 「Drawings - Plurality 複数性へと向かうドローイング<記号、有機体、機械>村山悟郎、
鈴木ヒラク、やんツー」 渋谷 PARCO MUSEUM TOKYO（東京）
「瀬戸内国際芸術祭 2022」 男木島（香川）
「ICC アニュアル 2022 生命的なものたち」
NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]（東京）

以上

山口 藍

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://mizuma-art.co.jp/artists/yamaguchi-ai/>

Facebook: <https://www.facebook.com/aininyu>

Instagram: [@aiyamaguchi_sekka](https://www.instagram.com/aiyamaguchi_sekka)

1977 年、東京都に生まれる。1999 年、女子美術大学芸術学部工芸科在学中に、ニニューワークス (ninyu works) を結成。「とうげのお茶や」で遊女として暮らす少女たちを、独特の支持体を用い、繊細かつしなやかな描線で表現する。江戸時代の文化や風俗を下敷きに、琳派、和歌などさまざまな日本の美を継承しつつ、新たな「美人画」を描くべく独自の理想美を追求している。近年の主な展覧会に「Kamisaka Sekka: dawn of modern Japanese design」(ニューサウスウェールズ州立美術館、オーストラリア、2012)、「大古事記展—五感で味わう、愛と想像の物語」(奈良県立美術館、2014)、神宮の杜芸術祝祭「百年の杜のアート『紫幹翠葉』」(明治神宮ミュージアム、東京、2020)、個展「山あいの歌」(ミヅマアートギャラリー、東京、2022) など。

略歴

1977 東京生まれ

1999 女子美術大学芸術学部工芸科（織専攻）在学中にニニューワークス結成

主な個展・二人展

2000 「かむろ」サロン粋 (石川)

「もこもこの月」NADiff (東京)

「春に知られぬ花」NADiff (東京)

2001 「笑門来福」シブヤ西武美術画廊 (東京)

「おみなえし」NADiff bis (宮城)

2002 「山口藍 個展」Stefan Stux Gallery (ニューヨーク、アメリカ)

「山口藍 個展」Giant Robot Store (ロサンゼルス、アメリカ)

「後朝」ギャラリー・イヴ (東京)

2003 「花袋」ビューイングルーム・ヨヨギ／ガレージ (東京)

「すくうとこ」Roberts & Tilton (ロサンゼルス、アメリカ)

2004 「花みて暮らす春」NADiff (東京) *NADiff bis (宮城) に巡回

「はるのゆくへ」Mizuho Oshiro ギャラリー (鹿児島)

「おやすみ」Shaheen Modern & Contemporary Art (クリーブランド、アメリカ)

2006 「E no e: Pictures of Pictures」GR2 (ロサンゼルス、アメリカ)

2007 「山、はるる」ミヅマアートギャラリー (東京)

- 2008 「花は野にあるように」 Roberts & Tilton (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2010 「きゅ」 ミヅマアートギャラリー (東京)
「ほがらほがら」 NADiff Gallery (東京)
- 2011 「雲隠」 Aki Gallery (台北、台湾)
- 2012 「よろこび」 NaDiff modern (東京)
「明日また」 10 Chancery Lane Gallery (香港)
山口藍・PIP & POP「うたかた、たゆたう the blinking of an eye」スパイラルガーデン (東京)
「ほし」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2014 「しんちりりん」 Joshua Liner Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2017 「キュレーターズセレクション #02 山口藍」女子美ガレリアニケ (東京)
「Resident Artist Project vol.1 Ai Yamaguchi」葉山有樹スタジオ (佐賀)
- 2018 「今と古ゝに」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2022 「山あいの歌」 ミヅマアートギャラリー (東京)
青木野枝+山口藍「山と空」銀座蔦屋書店 GINZA ATRIUM (東京)

主なグループ展

- 2002 「カゲキ・メトニミクス (過激な換喩)」 Stefan Stux Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2003 「Still Waters」 Roberts & Tilton (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2004 「OFFICINA ASIA」 Galleria d'Arte Moderna (ボローニャ、イタリア)
「Fiction. Love-Ultra New Vision in Contemporary Art」
Museum of Contemporary Art Taipei (台北、台湾)
「EYE OF THE NEEDLE」 Roberts & Tilton (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2005 「A ランチ」 アクシスギャラリーアネックス (東京)
「Untitled」 Roberts & Tilton (ロサンゼルス、アメリカ)
「take art collection 2005『美術百貨店』」スパイラルガーデン (東京)
- 2006 「Fiction@Love」 Museum of Contemporary Art Shanghai (上海、中国)
* Singapore Art Museum (シンガポール) に巡回
「DO NOT STACK」 Roberts & Tilton (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2008 「Off the Rails | 反主流」 Mizuma and One Gallery (北京、中国)
「Macrocosm」 Roberts & Tilton (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2009 「November Steps -Susan Phillipsz & Gallery Artists-」 ミヅマアートギャラリー (東京)
- 2012 「Kamisaka Sekka - dawn of modern Japanese design」
Art Gallery of New South Wales (シドニー、オーストラリア)
「ジパング展 一沸騰する日本の現代アート」新潟県立万代島美術館ほか巡回
- 2013 「LOOK EAST! 2 - Asian Perspectives」 Mizuma Gallery (ギルマンバラックス、シンガポール)
「Crossover」 AKI Gallery (台北、台湾)
「浮世絵 POP 江戸〜現代のポップカルチャー」静岡市東海道広重美術館 (静岡)

- 2014 「Conversations through the Asian collections」
Art Gallery of New South Wales (シドニー、オーストラリア)
「大古事記展 五感で味わう、愛と創造の物語」奈良県立美術館 (奈良)
「IMPACTS！・勢み」ZANE BENNETT Contemporary Art (サンタフェ、アメリカ)
- 2015 「エディション・ワークス Prints & Originals」Gallery SPEAK FOR (東京)
「Giant Robot Biennale 4」Japanese American National Museum (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2016 「IMPACTS！ 勢み」ギャラリー桜林 (茨城)
- 2017 「Cool Japan - worldwide fascination in focus」Museum Volkenkunde (ライデン、オランダ)
- 2018 「葉山有樹、takeshibuya、山口藍」葉山有樹スタジオ (佐賀)
- 2020 神宮の杜芸術祭「紫幹翠葉 - 百年の杜のアート」明治神宮ミュージアム (東京)

以上

山口 晃

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://mizuma-art.co.jp/artists/yamaguchi-akira/>

1969 年、東京都に生まれ群馬県桐生市で育つ。細密描写を得意として、日本の伝統的な絵画様式を用いた大画面の作品を制作する一方、立体、漫画、イラストレーションなど、様々なスタイルの作品を発表。成田国際空港、東京メトロ日本橋駅、JR 大分駅、富士山世界遺産センターほか、パブリックアートも数多く手がける。2018 年から月刊『モーニング・ツー』にて、漫画『趣都』を連載中。主なパブリックコレクションに大原美術館（岡山）、滋賀県立近代美術館（滋賀）、森美術館（東京）、チェスター・ビーティ図書館（ダブリン、アイルランド）など。

略歴

1969	東京都に生まれ、群馬県桐生市で育つ
1994	東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
1996	東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻（油画）修士課程修了
現在	東京を拠点に活動

主な個展・二人展

2005	「おさらい」高橋コレクション（東京） 「山口晃展」日本橋三越新館 7F ギャラリー（東京）
2006	「ラグランジュポイント」中京大学アートギャラリー C・スクエア（愛知） 「ラグランジュポイント」ミヅマアートギャラリー（東京）
2007	「アートで候。会田誠 山口晃 展」上野の森美術館（東京） 「山口晃展 今度は武者絵だ！」練馬区立美術館（東京）
2008	「さて、大山崎—山口晃展」アサヒビール大山崎山荘美術館（京都）
2010	「いのち丸」ミヅマアートギャラリー（東京）
2011	「Singa-planet」ジャパン・クリエイティブ・センター（シンガポール） 「東海道 新風景—山口晃と竹崎和征」ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
2012	「望郷 TOKIORE(l)MIX」メゾンエルメス 8 階フォーラム（東京） 「山口晃展～山口晃と申します 老若男女ご覧あれ～」美術館「えき」KYOTO（京都）
2013	「山口晃展～付き添いエンナーレ 老若男女ご覧あれ～」そごう美術館（神奈川） 「山口晃展～またまた添いエンナーレ 老若男女ご覧あれ～」新潟市美術館（新潟） 「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」群馬県立館林美術館（群馬）
2015	「山口晃展 前に下がる 下を仰ぐ」水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）

- 「山口晃展 汽車とかたな」鹿児島県霧島アートの森（鹿児島）
- 2016 「馬鑑 山口晃展」馬の博物館（神奈川）
- 「山口晃展 松山シフト ～道後に関する作品から代表作まで～」愛媛県美術館（愛媛）
- 「室町バイブレーション」ミヅマアートギャラリー（東京）
- 2018 「Resonating Surfaces」大和日英基金ジャパンハウスギャラリー（ロンドン、英国）
- 2019 横浜能楽堂企画公演「風雅と無常－修羅能の世界」
- 特別展示 山口晃「昼ぬ修羅」横浜能楽堂（神奈川）
- 2021 「山口晃 -ちこちこ小間ごと-」ZENBI-鍵善良房-KAGIZEN ART MUSEUM（京都）

主なグループ展

- 1997 「こたつ派」ミヅマアートギャラリー（東京）
- 1999 「A Window, Inside and Outside」光州市立美術館（光州、韓国）
- 2004 「Living Together is Easy」水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）
- * ヴィクトリア州立美術館（メルボルン、オーストラリア）へ巡回
- 「OFFICINA ASIA」ボローニャ近代美術館（ボローニャ、イタリア）
- 2005 「秘すれば花：東アジアの現代美術」森美術館（東京）
- 「Rising Sun, Melting Moon: Contemporary Art in Japan」
- イスラエル博物館（エルサレム、イスラエル）
- 2008 「ネオテニー・ジャパン -高橋コレクション」霧島アートの森（鹿児島）
- * 札幌芸術の森（北海道）他へ巡回
- 2010 第17回シドニービエンナーレ「THE BEAUTY OF DISTANCE: Songs of Survival in a Precarious Age」
- （オーストラリア）
- 「誠がいく、尚がいく、晃がいく－ミヅマ三人衆ジャパンを斬る－会田誠＋天明屋尚＋山口晃」
- 高橋コレクション日比谷（東京）
- 2011 「Bye bye Kitty!!!」ジャパン・ソサエティ（ニューヨーク、アメリカ）
- 「画家たちの二十歳の原点」平塚市美術館（神奈川）* 下関市美術館（山口）他へ巡回
- 「Edo Pop: the Graphic Impact of Japanese Prints」ミネアポリス美術館（ミネアポリス、アメリカ）
- 2012 「Double Vision: Contemporary Art from Japan」モスクワ市近代美術館（モスクワ、ロシア）
- * ハイファ博物館群（イスラエル）に巡回
- 「ジパング展 -沸騰する日本の現代アート」新潟県立万代島美術館（新潟）
- * 高崎市美術館（群馬）他へ巡回
- 2013 「描かれた都 開封・杭州・京都・江戸」大倉集古館（東京）
- 2015 「俯瞰の世界図」広島市現代美術館（広島）
- 2016 「鉄道美術館」川崎市岡本太郎美術館（神奈川）
- 「Unimaginable by One Mind Alone: Exquisite Corpses from the William Green Collection of Japanese Prints」ミード美術館（アマースト、アメリカ）
- 2017 「THE ドラえもん展 Tokyo 2017」森アーツセンターギャラリー（東京）

- 2018 第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展「建築の民族誌」
日本館（ジャルディーニ地区、イタリア）
- 2019 「インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史」埼玉県立近代美術館（埼玉）
＊国立国際美術館（大阪）他へ巡回
- 2020 リニューアル・オープン記念展Ⅰ「ART in LIFE, LIFE and BEAUTY」サントリー美術館（東京）
「Connections—海を越える憧れ、日本とフランスの150年」ポーラ美術館（神奈川）
- 2021 「電線絵画展 - 小林清親から山口晃まで -」練馬区立美術館（東京）
「TOKYO: ART & PHOTOGRAPHY」Ashmolean Museum（オックスフォード、英国）
「川端龍子 vs 高橋龍太郎コレクション - 会田誠・鴻池朋子・天明屋尚・山口晃 -」
大田区立龍子記念館（東京）
「Manga - Reading the Flow」Museum Rietberg（チューリッヒ、スイス）
- 2022 「平等院鳳凰堂と浄土院 その美と信仰」愛媛県美術館（愛媛）
＊静岡市美術館（静岡）他へ巡回

主な受賞歴

- 2001 岡本太郎記念現代芸術大賞優秀賞
- 2013 『へんな日本美術史』（祥伝社）で第12回小林秀雄賞

以上

山口 英紀

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://gallerykogure.com/artists/hidenori-yamaguchi/#>

1976 年、千葉県に生まれる。筑波大学にて書道と篆刻を学び、2002～04 年まで中国美術学院に文部科学省推薦中国政府招聘留学生として留学、水墨画を本格的に学ぶ。帰国後、都立高校の国語・書道の講師として働きながら作品を制作。水墨画の技法を用いた緻密な写実絵画で注目を集める。

略歴

- 1976 千葉県生まれ
- 1999 筑波大学芸術専門学群卒業
- 2001 筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了
- 2002-2004 中国美術学院留学（文部科学省推薦中国政府招聘留学生）

主な個展・二人展

- 2006 ギャラリーコンセプト 21（東京）
- 2008 新生堂（東京）
- 2009 新生堂（東京）
- 2010 新生堂（東京）
- 2012 ギャラリー広田美術（東京）＊榎本裕一との二人展
- 2014 千葉そごう美術画廊（千葉）
- 2015 「追懐」高島屋美術画廊ギャラリーX（東京）
- 2016 「融会古今（ゆうかいここん）」ちばぎんひまわりギャラリー（東京）
- 2020 「往来」高島屋美術画廊ギャラリーX（東京）
- 2022 Gallery Suchi（東京）＊篠田教夫との二人展

主なグループ展

- 2010 「高島屋美術部創設百年記念 美の予感 2010 ―新たなるカオスへー」日本橋高島屋（東京）
＊大阪、京都、横浜、名古屋、新宿に巡回
- 2011 「ネオ リアリズム ～新タナ時代ノ空気～」Bunkamura Gallery（東京）
- 2013 「VOCA 展 2013」上野の森美術館（東京）
- 2016 「Contemporary Cityscapes」ROPPONGI HILLS A/D GALLERY（東京）
- 2017 「THE ドラえもん展 TOKYO2017」森アートセンターギャラリー（東京）

- 「驚異の超絶技巧」三井記念美術館（東京）
- 「ニッポンの写実 そっくりの魔力」豊橋市美術博物館（愛知）ほか巡回
- 2021 「電線絵画展－小林清親から山口晃まで－」練馬区立美術館（東京）
- 高島屋創業 190 周年企画 「悉皆 風の時代の継承者たち」日本橋高島屋（東京）
- *大阪、京都、横浜、新宿に巡回
- 2022 「ULTRA OBJECT vol.3」Gallery Kogure（東京）
- 「小坂学 後藤勇治 山口英紀 | Group_Show_202211」3331 アーツ千代田（東京）
- 「CISTRON 写実の遺伝子」Gallery Suchi（東京）

以上

横尾 忠則

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://www.tadanoriyokoo.com/>

Twitter: [@tadanoriyokoo](https://twitter.com/tadanoriyokoo)

1936 年、兵庫県に生まれる。1956 年、神戸新聞社でグラフィックデザイナーとしての活動を始め、1960 年に上京。唐十郎、寺山修司、土方巽といった舞台芸術のポスターを数多く手がけ、1969 年パリ青年ビエンナーレにおいて版画部門グランプリを受賞。1972 年にはニューヨーク近代美術館で個展が開催される。1980 年、同館で開催された大規模なピカソ展を観て衝撃を受け、「画家宣言」を行う。様々な手法と様式を駆使し、森羅万象に及ぶ多様なテーマを描いた絵画作品が国際的に高く評価される。2000 年代以降、国内の国公立美術館での個展のほか、パリのカルティエ現代美術財団をはじめ、海外での展覧会も数多く開かれている。2012 年に横尾忠則現代美術館（兵庫）、2013 年に豊島横尾館（香川）が開館。2023 年 9 月には、東京国立博物館において、個展「横尾忠則・寒山百得」が予定されている。

略歴

1936	兵庫県生まれ
1956	神戸新聞社でグラフィックデザイナーとしての活動を始める
1972	ニューヨーク近代美術館で個展開催
1980	画家宣言
現在	東京を拠点に活動

主な個展

1972	「Graphics by Tadanori Yokoo」ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
1997	「私への帰還——横尾忠則美術館 1966-1997」兵庫県立近代美術館（兵庫） ＊神奈川県立近代美術館（神奈川）に巡回
2001	「横尾忠則 二つの境域」富山県立近代美術館（富山） 「横尾忠則作・暗夜光路」原美術館（東京）
2002	「横尾忠則 森羅万象」東京都現代美術館（東京）＊広島市現代美術館（広島）に巡回
2003	「横尾 by ヨコオ：描くことの快樂イメージの遍歴と再生」京都国立近代美術館（京都）
2005	「横尾忠則－熊本・ブエノスアイレス化計画」熊本市現代美術館（熊本）
2006	「Tadanori Yokoo」カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
2008	「冒険王・横尾忠則」世田谷美術館（東京）＊兵庫県立美術館（兵庫）に巡回
2009	「未完の横尾忠則－君のものは僕のもの」金沢 21 世紀美術館（石川）
2010	「横尾忠則全ポスター」国立国際美術館（大阪）

- 2011 「横尾忠則展 絵人百九面相」岡山県立美術館（岡山）＊高知県立美術館（高知）に巡回
- 2014 「横尾忠則の地底旅行」霧島アートの森（鹿児島）
- 2016 「横尾忠則 迷画感応術」箱根彫刻の森美術館（神奈川）
「Tadanori Yokoo. The Art of Meanings」ロシア国立東洋美術館（モスクワ、ロシア）
- 2017 「横尾忠則 HANGA JUNGLE」町田市立国際版画美術館（東京）
「横尾忠則 十和田ロマン展 POP IT ALL」十和田市現代美術館（青森）
- 2019 「横尾忠則 西脇幻想展 光るまち・光る記憶」西脇市岡之山美術館（兵庫）
- 2021 「GENKYO 横尾忠則 原郷から幻境へ、そして現況は？」愛知県美術館（愛知）
＊東京都現代美術館（東京）、大分県立美術館（大分）
「横尾忠則：The Artists」21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3（東京）

主なグループ展

- 1968 「ワード・アンド・イメージ」ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 1971 「戦後美術のクロニクル」神奈川県立近代美術館（神奈川）
- 1974 「日本—伝統と現代」デュッセルドルフ市立美術館（デュッセルドルフ、ドイツ）
- 1980 「ジャパンスタイル」ヴィクトリア&アルバート博物館（ロンドン、英国）
- 1981 「1960年代—現代美術の転換期」東京国立近代美術館（東京）
＊京都国立近代美術館（京都）に巡回
- 1983 「現代美術の動向2—1960年代」東京都美術館（東京）
- 1984 「20世紀ポスター：アヴァンギャルド展」ウォーカーアートセンター（ミネアポリス、アメリカ）
- 1985 第13回パリ・ビエンナーレ（フランス）
第18回サンパウロ・ビエンナーレ（ブラジル）
- 1986 「東京—その形と心」ウォーカーアートセンター（ミネアポリス、アメリカ）
＊ロサンゼルス現代美術館（ロサンゼルス、アメリカ）、
IBM ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）、
サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ、アメリカ）に巡回
「前衛芸術の日本 1910-1970」ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）
- 1987 「ワイズマンコレクション・セレクション」
ペンシルベニア美術院美術館（ペンシルベニア、アメリカ）
- 1988 「近代美術にみる人間像」東京国立近代美術館（東京）
- 1989 第4回バンガラデッシュ・アジア・アート・ビエンナーレ
- 1991 「Beyond Japan: A Photo Theatre」バービカンアートギャラリー（ロンドン、英国）
- 1993 第45回ヴェネツィア・ビエンナーレ（イタリア）
- 1994 「戦後日本の前衛美術」横浜美術館（神奈川）
＊グッゲンハイム美術館ソーホー（ニューヨーク、アメリカ）、
サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ、アメリカ）に巡回
- 1995 「戦後文化の軌跡 1945-1995」目黒区美術館（東京）

- * 広島市現代美術館（広島）、兵庫県立近代美術館（兵庫）、福岡県立美術館（福岡）に巡回
「今日の日本」ルイジアナ近代美術館（コペンハーゲン、デンマーク）
- 1999 「日本ゼロ年展」水戸芸術館現代美術センター（茨城）
- 2000 「MoMA ハイライト－ニューヨーク近代美術館からの 325 作品」
ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2001 「センチュリー・シティー：現代都市の芸術と文化」テート・モダン（ロンドン、英国）
- 2004 「マルセル・デュシャンと 20 世紀美術」国立国際美術館（大阪）* 横浜美術館（横浜）に巡回
- 2006 カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
- 2007 「芸術・反芸術・非芸術：戦後日本における公共圏での実験、1950-1970」
ポール・ゲッティ美術館（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2008 「アジアとヨーロッパの肖像」国立国際美術館（大阪）
- 2010 「Self Portrait—私という他人」高橋コレクション日比谷（東京）
- 2011 横浜トリエンナーレ 2011（神奈川）
「Postmodernism: Style and Subversion 1970-1990」
ヴィクトリア&アルバート博物館（ロンドン、英国）
「Mathematics: A Beautiful Elsewhere」カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
- 2012 「ダブル・ヴィジョンー日本現代美術展」モスクワ市立美術館（モスクワ、ロシア）
*ハイファ美術館群（ハイファ、イスラエル）に巡回
- 2015 「THE WORLD GOES POP」テート・モダン（ロンドン、英国）
- 2016 「Pop Art, mon Amour」メゾン・ダイユール（イベルドン、スイス）
「The Art of Meanings」ロシア国立東洋美術館（モスクワ、ロシア）
- 2018 「美しき異界」上海当代芸術博物館（上海、中国）
「起点としての 80 年代」金沢 21 世紀美術館（石川）
* 高松市美術館（香川）、静岡市美術館（静岡）に巡回
- 2020 「古典×現代 2020－時空を超える日本のアート」国立新美術館（東京）

主な受賞歴

- 1969 第 6 回パリ青年ビエンナーレ版画部門グランプリ
- 1974 第 5 回ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞
- 2001 紫綬褒章受章
- 2008 第 36 回泉鏡花文学賞
- 2011 旭日小綬章受章
朝日賞
- 2013 神戸新聞平和賞
- 2014 日本宣伝賞山名賞
- 2015 第 27 回高松宮殿下記念世界文化賞

以上

李 禹煥

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.studioleeufan.org>

1936 年大韓民国慶尚南道生まれ。日本大学文理学部哲学科卒業。60 年代後半から「もの派」の中心人物として活動。木や石といった自然素材と、紙や鉄板、ガラスなどの工業製品に最小限の手を加えることで組み合わせ、関係させる作品を制作。鉄板、石、ガラスなどを組み合わせた彫刻に加え、70 年代初頭からは平面作品も制作し、時間的な経過を導入した「線より」「点より」のシリーズ、80 年代にはよりダイナミックに空間を意識した「From Winds」「With Winds」のシリーズ、90 年代以降は「Correspondance」シリーズを経て、キャンパスの一部のみに筆の跡を残し、大きく余白を残した「Dialogue」のシリーズへと展開する。一貫して、つくることとつくらないことの組み合わせで表現を試みている。

略歴

1936 大韓民国慶尚南道生まれ

主な個展

1963	中央公論画廊（東京）
1967	サトウ画廊（東京）
1970	田村画廊（東京）
1971	ピナール画廊（東京）
1972	明東画廊（ソウル、韓国）
1973	東京画廊（東京）
1974	田村画廊（東京）
1975	エリックファールブル（パリ、フランス）
1976	ギャラリー m（ボッフム、ドイツ）
1977	東京画廊（東京） エリックファールブル（パリ、フランス）
1978	ギャラリー m（ボッフム、ドイツ） アントワープ・ギャラリー（アントワープ、ベルギー） デュッセルドルフ市立美術館（デュッセルドルフ、ドイツ） ルイジアナ現代美術館（コペンハーゲン、デンマーク）
1980	エリックファールブル（パリ、フランス）
1983	東京画廊（東京）
1984	現代画廊（ソウル、韓国）

- ギャラリー・ド・パリ（パリ、フランス）
- 1986 東京画廊（東京）
- 1988 岐阜県美術館（岐阜）
ミラノ市立現代美術館（ミラノ、イタリア）
- 1989 ギャラリーm（ボッフム、ドイツ）
ギャラリー・ド・パリ（パリ、フランス）
- 1990 現代画廊（ソウル、韓国）
- 1991 東京画廊（東京）
原ミュージアムアーク（群馬）
- 1993 神奈川県立近代美術館（神奈川）
- 1994 ソウル国立現代美術館（ソウル、韓国）
- 1995 ギャラリーm（ボッフム、ドイツ）
レバクーゼン市立美術館（レバクーゼン、ドイツ）
- 1996 リッソン・ギャラリー（ロンドン、英国）
- 1997 ジュ・ド・ポウム国立美術館（パリ、フランス）
- 1998 フランクフルト市立ステーデル美術館（ドイツ）
- 2000 ギャラリーm（ボッフム、ドイツ）
- 2001 ボン美術館（ボン、ドイツ）
- 2002 SCAI THE BATHHOUSE（東京）
- 2003 サムソン美術館（ソウル、韓国）
- 2004 サンルイ美術館（サンルイ、フランス）
- 2005 「李禹煥: 余白の芸術」横浜美術館（横浜）
サン＝テティエンヌ美術館（サン＝テティエンヌ、フランス）
- 2007 「李禹煥: Resonance」第52回ベニス・ビエンナーレ、パルンボ・フォッサーティ館
（ベニス、イタリア）
- 2008 「李禹煥」ベルギー王立美術館（ブリュッセル、ベルギー）
Dahlem Asian Art Museum（ベルリン、ドイツ）
- 2011 「李禹煥: Marking Infinity」グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2012 「李禹煥: Relatum - signal」アジアソサエティー（ヒューストン、アメリカ）
- 2013 「李禹煥: Tension précaire」サンローラン教会（アルル、フランス）
狩猟自然博物館（パリ、フランス）
- 2014 「李禹煥: ヴェルサイユ」ヴェルサイユ宮殿（ヴェルサイユ、フランス）
- 2015 「李禹煥: 色のハレーション／空間のハレーション」SCAI THE BATHHOUSE（東京）
- 2016 「李禹煥」Château la Coste、Le Puy-Sainte-Réparate（プロヴァンス、フランス）
「Sculpture in the Courtyard: 李禹煥. The Cane of Titan」
エルミタージュ美術館（サンクトペテルブルク、ロシア）
- 2017 「李禹煥: Chez le Corbusier」La Tourette（リヨン、フランス）
- 2018 「李禹煥: Relatum - Stage」Serpentine Sackler Gallery（ロンドン、英国）

- 2019 「李禹煥: Open Dimension」 Hirshhorn Museum and Sculpture Garden (ワシントン D.C、アメリカ)
 「李禹煥」 Dia:Beacon (ニューヨーク、アメリカ)
 「李禹煥: Inhabiting time」 ポンピドゥー・センター＝メッセ (メッセ、フランス)
- 2020 「絵画展」 SCAI THE BATHHOUSE (東京)
- 2021 「李禹煥: Requiem」 アリスカン (アルル、フランス)
- 2022 「国立新美術館開館 15 周年記念 李禹煥」 国立新美術館 (東京)
 「兵庫県立美術館開館 20 周年記念 李禹煥」 兵庫県立美術館 (兵庫)

主なグループ展

- 1968 「韓国現代絵画展」 東京国立近代美術館 (東京)
- 1969 「第 10 回サンパウロ・ビエンナーレ」 (サンパウロ、ブラジル)
 「現代美術の動向」 京都国立近代美術館 (京都)
- 1970 「1970 年 8 月 現代美術の一断面」 東京国立近代美術館 (東京)
- 1971 「第 7 回パリ青年ビエンナーレ」 (パリ、フランス)
- 1973 「第 12 回サンパウロ・ビエンナーレ」 (サンパウロ、ブラジル)
- 1976 「第 2 回シドニー・ビエンナーレ」 ニュー・サウス・ウェールズ美術館 (シドニー、オーストラリア)
- 1977 「ドクメンタ 6」 (カッセル、ドイツ)
- 1980 「20 世紀の彫刻」 ヴェンケンパルク (バーゼル、スイス)
- 1982 「素描の巨匠たち」 ニュルンベルグ市立美術館 (ニュルンベルグ、ドイツ)
 「素材と芸術」 国立美術館 (ベルリン、ドイツ)
- 1983 「'83 ヘルシンキ国際美術展」 (ヘルシンキ、フィンランド)
- 1984 「現代美術の動向Ⅲ」 東京都美術館 (東京)
- 1986 「前衛の日本 1910-1970」 ポンピドゥー・センター (パリ、フランス)
- 1990 「青 距離の色」 ハイデルベルグ芸術家協会 (ハイデルベルク、ドイツ)
- 1992 「韓国現代美術-自然とともに制作する」 テイト・ギャラリー (ロンドン、英国)
- 1994 「戦後日本の前衛美術」 横浜美術館 (神奈川)
 「戦後日本の前衛美術 空へ叫び」 グッゲンハイム美術館ソーホー分館 (ニューヨーク、アメリカ)
 サンフランシスコ近代美術館ブエナ・ガーデンズ視覚芸術センター (サンフランシスコ、アメリカ)
- 1995 「ASIANA 極東の現代美術」 ヴァンドラミン宮殿 (ヴェネツィア、イタリア) /
 「1970 年一物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち」 岐阜県美術館 (岐阜) / 広島市美術館 (広島)
 北九州市美術館 (福岡) / 埼玉県立近代美術館 (埼玉) /
 サン＝テティエンヌ近代美術館 (サン＝テティエンヌ、フランス)
- 1997 「メイド・イン・フランス」 ポンピドゥー・センター (パリ、フランス)
- 1999 「対話のアート世界」 ルドヴィッヒ美術館 (ケルン、ドイツ)
- 2000 「第 3 回光州ビエンナーレ」 (光州、韓国)
 「第 3 回上海ビエンナーレ」 (上海、中国)
- 2001 「センチュリ・シティ」 テイト・モダン (ロンドン、英国)

- 「アート族」市立近現代美術館（ローマ、イタリア）
「もの派展」ケトルズヤード（ケンブリッジ、英国）／
ニューリン・アート・ギャラリー（ニューリン、英国）
- 2002 「第4回アジア・太平洋トリエンナーレ」
クイーンズランド州立美術館（ブリスベン、オーストラリア）
- 2005 「もの派-再考」国立国際美術館（大阪）
- 2007 「柔軟なタブー」ウィーン市立美術館（ウィーン、オーストリア）
- 2008 「細い影の線」ムディマ財団（ミラノ、イタリア）
- 2009 「Infinitum」フォルチュニイ宮殿（ヴェネツィア、イタリア）
- 2011 「第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ: The World Belongs to You」
グラッシ宮殿（ヴェネツィア、イタリア）
「第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ: The Personal Structures」
ベンボ宮殿（ヴェネツィア、イタリア）
- 2012 「Tokyo 1955-1970: A New Avant-Garde」ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2013 「第55回ヴェネツィア・ビエンナーレ: Prima Materia」
プンタ・デラ・ドガーナ（ヴェネツィア、イタリア）
- 2014 「シンプルなかたち形展: 美はどこからくるのか」
ポンピドゥー・センター＝メッス（メッス、フランス）
「The Mirror - Hold the Mirror up to Nature」名古屋商工会館（東京）
「開館35周年記念 原美術館コレクション展」原美術館（東京）
- 2015 「高橋コレクション展 ミラー・ニューロン」東京オペラシティアートギャラリー（東京）
「第56回ヴェネツィア・ビエンナーレ: 単色画」
コンタリーニ・ポリニャック宮殿（ヴェネツィア、イタリア）
- 2016 「ぐるっと展望！現代アート入門 - 高橋コレクション」金津創作の森（福井）
- 2017 「第14回リヨン・ビエンナーレ: フローティング・ワールズ」（リヨン、フランス）
「ジャパノラマ 1970年以降の新しい日本のアート」
ポンピドゥー・センターメッス（メッス、フランス）
- 2019 「2019 アジアンアート・ビエンナーレ: 山河の向こうからの異邦人」国立台湾美術館（台中、台湾）
「The Challenging Souls: イヴ・クライン、李禹煥、ディン・イ」上海当代藝術博物館（上海、中国）
- 2021 大林コレクション展「Self-History」WHAT MUSEUM（東京）

主な受賞歴

- 1993 日本文化デザイン賞
- 2000 ユネスコ賞受賞（第3回上海ビエンナーレにおいて）
- 2001 ホアム賞（サムスン財団）
第13回高松宮殿下記念世界文化賞（絵画部門）
- 2002 紫綬褒章受章

- 2006 第 47 回毎日芸術賞
- 2007 フランス政府よりレジオンドヌール勲章受賞
- 2009 旭日小綬章受章
- 2013 金冠文化勲章

パブリックコレクション

エルミタージュ美術館（サンクトペテルブルク、ロシア）、オルブライト＝ノックス美術館（バッファロー、ニューヨーク、アメリカ）、ニューサウスウェールズ州立美術館（シドニー、オーストラリア）、テキサスアジア協会（ヒューストン、アメリカ）、釜山市立美術館（釜山、韓国）、ブルックリン美術館（ニューヨーク、アメリカ）、カステッロディアマ（シエナ、イタリア）、ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）、千葉市美術館（千葉）、ラ・コマンドリー・ド・ペラソル、フラッサン＝シュル＝イソル（フランス）、ダラス美術館（ダラス、アメリカ）、Donjon de Vez（フランス）フランス国立現代美術基金（FNAC）（パリ、フランス）、Fondazione Mudima（ミラノ、イタリア）、フレデリク・マイヤー庭園と彫像公園（グラント・ラピッツ、アメリカ）、福岡市美術館（福岡）、プラハ国立美術館（プラハ、チェコ）、北海道立近代美術館（北海道）、箱根 彫刻の森美術館（神奈川）、原美術館（東京）、広島市現代美術館（広島）、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）、いわき市立美術館（福島）、クレラー・ミュラー美術館（オッテルロー、オランダ）、ニュルンベルク美術館（ニュルンベルク、ドイツ）、チューリッヒ美術館（チューリッヒ、スイス）、ボン美術館（ボン、ドイツ）、ルール大学、ボーフム美術館（ボーフム、ドイツ）、Leeum サムスン美術館（ソウル、韓国）、李禹煥美術（香川）、プレインエア彫刻美術館（パリ、フランス）、M+（香港）、宮城県美術館（宮城）、岐阜県美術館（岐阜）、神奈川県立近代美術館（神奈川）、ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）、国立国際美術館（大阪）、国立現代美術館ソウル館（ソウル、韓国）、京都国立近代美術館（京都）、東京国立近代美術館（東京）、ベルリン国立美術館（ベルリン、ドイツ）、新潟県立近代美術館（新潟）、大原美術館（岡山）、ピノー・ファンデーション（ベニス、イタリア）、クイーンズランド州立美術館（ブリスベン、オーストラリア）、ソウル市立美術館（ソウル、韓国）、世田谷美術館（東京）、セゾン現代美術館（長野）、サンパウロ・アートライブラリー（サンパウロ、ブラジル）、Situation Kunst（ボーフム、ドイツ）、ヘニー・オンスタッド美術館（オスロ、ノルウェー）、スペース・リーウファン（釜山、韓国）、ドレスデン美術館（ドレスデン、ドイツ）、モルスブロイヒ美術館（レバークーゼン、ドイツ）、シュテッデル美術館（フランクフルト、ドイツ）、シュトゥットガルト州立美術館（シュトゥットガルト、ドイツ）、Sundheim Collection（ニューヨーク、アメリカ）、ソングェ美術館（韓国）、高松市美術館（香川）、テイト・ギャラリー（ロンドン、英国）、栃木県立美術館（宇都宮）、東京都現代美術館（東京）、豊田市美術館（愛知）、宇都宮美術館（栃木）、ウースター美術館（マサチューセッツ、アメリカ）

以上